

消 防 年 報

令和 6 年版



愛 川 町 消 防 本 部

町章



この町章は「アイ川」を図案化し、清流の美と人心の輪を象徴しています。全体の円が町の円満をあらわし、右側にカタカナで「ア」、左側に同じく「イ」、中央部が「川」を意味しています。

(昭和27年6月10日制定)

[ひかり、みどり、ゆとり、協働のまち愛川]



町の鳥 (カワセミ)



町の観光キャラクター (あいちゃん)



町の花 (つつじ)



町の木 (かえで)

愛川町民憲章

わたくしたちは、美しい自然に恵まれ、こころゆたかな“ふるさと愛川”の町民であることを誇りとし、みんなのしあわせとまちの発展に願いをこめて、ここに町民憲章を定めます。

- 1 水とみどりを愛し、住みよい環境をつくりましょう。
- 1 健康で楽しく働き、明るい家庭をきずきましょう。
- 1 たがいに仲よく助けあい、愛の輪をひろげましょう。
- 1 ものと時間を大切にし、きまりや約束をまもりましょう。
- 1 学びあい、教養を深め、文化の高いまちにしましょう。

(昭和56年5月10日制定)

町民みなスポーツの町宣言

わたくしたち愛川町民は、一人ひとりが生涯をとおしスポーツに親しみ、健康でたくましい心とからだをつくるとともに、スポーツを通じて町民の交流を深め、活力ある明るい豊かな愛川町を築くことを誓い、次の目標をかかげて、ここに「町民みなスポーツの町」を宣言します。

- 1 わたくしたちは、生涯をとおしスポーツに親しみ、健康でたくましい心とからだをつくります。
- 1 わたくしたちは、スポーツを毎日のくらしの中にとりいれ、明るい家庭を築きます。
- 1 わたくしたちは、スポーツをとおしてたがいに交流し、友情の輪をひろげます。
- 1 わたくしたちは、スポーツをとおして規律ある生活態度を身につけ、活力ある町づくりを進めます。
- 1 わたくしたちは、スポーツをとおして人間愛を育て広く世界の人びとと手をつなぎます。

(平成元年4月8日制定)

応急手当普及推進の町 愛川宣言

わたくしたち愛川町民は、人の命の尊さを胸に、誰もがとっさの手当のできる力を身に付けることをとおして、安心感あふれる町づくりを進めるために、次の目標をかかげ、ここに「応急手当普及推進の町 愛川」を宣言します。

- 1 「私もわが家の救急隊員」を合言葉に、応急手当の普及につとめます。
- 1 応急手当のできる人が、どこの家にも必ずいるような環境づくりをめざします。
- 1 「ひとを救うのは人」かけがえのない命を守るために、進んで手をさしのべます。
- 1 応急手当の知識、技術を、日常生活での事故防止に役立てます。
- 1 応急手当の普及を進めることにより、温かな連帯と安心の輪を広げます。

(平成13年5月16日制定)

愛川健康のまち宣言

健康は、みんなの願いであり、幸せの源です。

町民みんなが手を携えて、積極的に健康づくりを実践し、共に生きる喜びを分かち合いながら、心豊かな明るい愛川を築くため、ここに「健康のまち」を宣言します。

- 1 「自らの健康は自らが守る」の意識を高め、健康管理に努めます。
- 1 恵まれた自然とふれあいながら、健康運動を楽しみ、元気な心と体をつくります。
- 1 休養を上手にとり、心穏やかな毎日を楽しみます。
- 1 栄養バランスのとれた食生活を続けます。
- 1 家庭、地域で支え合い、健康づくりの輪を広げます。

(平成28年7月3日制定)

は し が き

この年報は、愛川町消防の実態を紹介するため、諸般の事項を統計的に収録したものです。

統計は主として、令和7年4月1日現在で調査したもので、表中年月日の明示したものは、その時点の現況となっています。

なお、面積・地形・世帯数については町役場関係各課の資料から、気象統計は消防署の観測によるものです。

本書により、本町の消防の実態についてご理解いただくとともに広くご利用いただければ幸いです。

令和7年7月

愛川町消防本部

目 次

◇愛川町の概要◇

1	愛川町の概要	8
2	面積・人口・世帯数	9
	外国人登録数・国籍別人員	9

◇愛川町消防の概要◇

3	歴代消防団長	10
4	歴代消防長	10
5	歴代消防署長	11
6	常備消防のあゆみ	12
7	町民と消防	18
8	消防機構図	18
9	常備消防の現勢	19
10	消防力の状況	20
11	消防庁舎の現況	21
12	消防車両保有状況	21
13	消防水利の状況	22

◇総務関係◇

14	消防予算の概要	25
15	町予算歳出（目的別）構成図	26
16	町予算と常備消防費との比較	27
17	消防職員勤務年数	27
18	消防職員年齢状況	28
19	消防職員居住別	28
20	消防職員採用状況	29
21	職員研修等の状況	29
22	消防職員特殊技能有資格者	30

◇予防関係◇

23	火災予防の概要	33
24	立入検査実施状況	34
25	防火対象物・防火管理状況	35
26	防火対象物定期点検報告を必要とする対象物	35
27	建築確認申請等消防同意状況	36
28	中高層・高層建築物	36
29	防災管理定期点検を必要とする対象物	36
30	消防用設備等届出状況	37
31	予防関係諸届出状況	37
32	倍数・類別危険物施設状況	38
33	危険物施設事務処理状況	39
34	危険物完成検査前検査状況	39
35	危険物手数料状況	39
36	民間防火団体の活動概要	40

◇警防関係◇

火災の状況

37	火災概要	4 5
38	火災詳細一覧	4 6
39	四季別出火件数	4 7
40	時間別火災発生件数	4 8
41	火災の覚知方法別	4 8
42	建物火災用途別状況	4 9
43	原因別出火件数	5 0
44	初期消火状況	5 0
45	過去10年間の出火件数と損害額	5 1
46	地区別火災発生状況	5 2

救助の状況

47	救助出動概要	5 3
48	地区別・種別出動状況	5 4
	地区別割合	5 4
	事故種別割合	5 4

警戒の状況

49	警戒出動概要	5 5
	種別出動件数	5 5
	地区別出動件数	5 5
	活動内容	5 5

風水害の状況

50	風水害出動概要	5 6
	種別出動件数	5 6
	地区別出動件数	5 6

災害件数の状況

51	過去5年間の災害件数	5 7
----	------------	-----

◇通信関係◇

52	通信指令業務の概要	6 1
53	システムを構成する主な機器と設備	6 1
54	消防無線系統図	6 2
55	消防無線機一覧表（デジタル無線局）	6 3
56	消防無線機一覧表（署活系無線局）	6 4
57	月別災害受付状況（携帯電話通報を含む）	6 5
58	月別災害通報等覚知件数状況	6 5
59	月別病院問い合わせ	6 5
60	月別気象状況	6 5
61	気象統計	6 6
	気象の観測地点	6 6
	観測期間中の最高・最低記録	6 6
	平均気温推移	6 6
	年間雨量推移	6 6

◇救急関係◇

62	救急出場概要	69
63	事故種別出場件数	70
64	交通事故の状況	70
65	月別出場件数	70
66	月別搬送人員	70
67	時間別出場件数	71
68	傷病程度・事故種別搬送人員	71
69	ドクターヘリコプター搬送概要	71
70	過去10年間の出場件数の推移	71
71	傷病程度別年齢区分別搬送人員	72
72	救急隊員の行った応急処置件数	72
73	住民の方が行った応急手当件数	72
74	熱中症傷病者搬送人員	73
75	救急業務の高度化とメディカルコントロール体制	74
76	応急手当普及啓発活動	74
77	年別救命講習修了者数	75
78	町内公共施設自動体外式除細動器（AED）設置状況	76
79	小学生BLS授業	77
80	普通救命講習Ⅲ	78

◇消防団関係◇

81	消防団の概要	81
82	消防団のあゆみ	82
83	消防団員報酬額	86
84	消防団員出動状況	86
85	消防団員出動手当	86
86	消防団員在職年数	86
87	消防団員退職報償金	86
88	消防団員の定員・実員・階級別年齢状況	87
89	消防団員の勤務先状況	87
90	消防団現有車両	88
91	消防団器具舎	89

◇資料◇

岩手県大船渡市林野火災に伴う緊急消防援助隊活動記録	90
---------------------------	----

1 愛川町の概要

本町は、神奈川県中央北部に位置する水と緑に恵まれた町です。地勢は、町の西部に仏果山を最高峰とする山並みが連なり、町の中央を、中津川が貫流して川沿いに低地をつくり、中津川と町の東端を流れる相模川に挟まれた中央部から東部にかけて台地が広がっています。

昭和30年に旧愛川町と高峰村が合併、翌31年に中津村も合併して現在の姿となりました。美しい自然と中津川の清流にはぐくまれて江戸時代から繊維産業が発達「糸の町」として広くその名を知られています。昭和41年に県内陸工業団地が完成してからは産業都市として躍進をし、今では人口39,352人、19,526世帯（令和7年4月1日現在）を数えるに至っています。

また、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の開通により、東名高速道路や中央自動車道、関越自動車道等の高規格幹線道路と接続したことから、本町へのアクセス性が飛躍的に高まったほか、今後も国道246号バイパス（厚木秦野道路）との接続が予定されており、さらなる広域交通の利便性が高まるものと期待されています。

町の面積34.28km²のうち70%を山林に囲まれた、自然・人・産業の調和のとれた町となっています。

<愛川町の位置>

役場所在地 東経 139度19分18秒
北緯 35度31分44秒
標高 127.70メートル



2 面積・人口・世帯数

令和7年4月1日現在

①住民基本台帳登録人口

面積	人口			世帯数
34.28 k m ²	男性	20,636 人	39,352 人	19,526 世帯
	女性	18,716 人		

②住民基本台帳法に基づく人数

	人口			世帯数 (世帯)
	男性(人)	女性(人)	計(人)	
半原地区	3,402	3,193	6,595	3,268
田代地区	1,409	1,374	2,783	1,317
角田地区	1,611	1,425	3,036	1,443
三増地区	652	596	1,248	621
春日台地区	1,663	1,535	3,198	1,571
中津地区	11,783	10,500	22,283	11,194
八菅山地区	20	26	46	23
棚澤地区	96	67	163	89
合計	20,636	18,716	39,352	19,526

③外国人登録法に基づく登録者数及び国籍別登録人員

	人口			世帯数 (世帯)
	男性(人)	女性(人)	計(人)	
外国籍住民	2,081	1,627	3,708	2,074

No.	国籍	人員	No.	国籍	人員	No.	国籍	人員
1	アルゼンチン	18	19	イタリア	1	37	南アフリカ共和国	1
2	オーストラリア	2	20	朝鮮	2	38	スベイン	0
3	ポリビア	33	21	韓国	29	39	タイ	206
4	ブラジル	454	22	ラオス	61	40	トルコ	5
5	ミャンマー	9	23	レバノン	1	41	ウガンダ	2
6	カンボジア	194	24	マレーシア	2	42	英国	2
7	スリランカ	393	25	メキシコ	1	43	米国	5
8	チリ	1	26	モンゴル	5	44	バングラデシュ	6
9	コロンビア	11	27	モロッコ	1	45	ベトナム	557
10	中国	119	28	ネパール	51	46	ドイツ	2
11	ドミニカ共和国	62	29	ニカラグア	1	47	ジンバブエ	1
12	エルサルバドル	1	30	ナイジェリア	1	48	ロシア	4
13	フランス	2	31	パキスタン	63	49	台湾	6
14	ガーナ	4	32	パラグアイ	19	50	無国籍	3
15	ホンジュラス	1	33	ペルー	680	51	その他	1
16	インド	15	34	フィリピン	470			
17	インドネシア	189	35	セネガル	1	合計		3,708
18	イラン	9	36	シンガポール	1	人口に対する割合		9.42%

3 歴代消防団長

昭和31年	9月	初代	河内	保氏	就任
昭和34年	4月	2代	大貫	弘二氏	就任
昭和38年	4月	3代	井上	包雄氏	就任
昭和40年	4月	4代	小島	利徳氏	就任
昭和44年	4月	5代	梅沢	要氏	就任
昭和46年	4月	6代	小野	沢芳治氏	就任
昭和48年	4月	7代	山田	佐七氏	就任
昭和50年	4月	8代	馬場	光義氏	就任
昭和52年	4月	9代	斉藤	信男氏	就任
昭和54年	4月	10代	熊坂	忠雄氏	就任
昭和56年	4月	11代	中村	文夫氏	就任
昭和60年	4月	12代	山口	一男氏	就任
昭和62年	4月	13代	大矢	邦明氏	就任
平成4年	4月	14代	馬場	紀光氏	就任
平成12年	4月	15代	熊坂	康治氏	就任
平成18年	4月	16代	柏木	彰氏	就任
平成24年	4月	17代	小川	成仁氏	就任
平成26年	4月	18代	鈴木	慎三氏	就任
令和2年	4月	19代	小島	一彦氏	就任

4 歴代消防長

昭和50年	5月	初代	相馬	晴義氏	就任
昭和53年	1月	2代	馬場	安氏	就任
昭和59年	4月	3代	小島	訥央氏	就任
昭和62年	4月	4代	伊従	昭夫氏	就任
昭和63年	4月	5代	小島	助司氏	就任
平成4年	4月	6代	高木	繁太郎氏	就任
平成6年	4月	7代	和田	武氏	就任
平成13年	4月	8代	和田	英男氏	就任
平成16年	4月	9代	平本	典夫氏	就任
平成18年	4月	10代	齋藤	増雄氏	就任
平成22年	4月	11代	小島	治重氏	就任
平成23年	4月	12代	大貫	佳孝氏	就任
平成24年	4月	13代	沼田	直己氏	就任
平成28年	4月	14代	梅澤	幸司氏	就任
平成30年	4月	15代	石川	省吾氏	就任
令和2年	4月	16代	岩本	誠氏	就任
令和7年	4月	17代	茅	英樹氏	就任

5 歴代消防署長

昭和51年	4月	初代	小島 助司	氏	就任
昭和53年	1月	2代	馬場消防長が兼任		
昭和59年	4月	3代	和田 英男	氏	就任
平成2年	4月	4代	小島消防長が兼任		
平成4年	4月	5代	高木消防長が兼任		
平成6年	4月	6代	齋藤 増雄	氏	就任
平成15年	4月	7代	大野 哲	氏	就任
平成21年	4月	8代	沼田 直己	氏	就任
平成22年	4月	9代	吉川 正美	氏	就任
平成26年	4月	10代	荻田 康也	氏	就任
平成26年	8月	11代	梅澤 幸司	氏	就任
平成28年	4月	12代	奈良 隆敏	氏	就任
平成29年	4月	13代	新倉 哲夫	氏	就任
平成31年	4月	14代	岩本 誠	氏	就任
令和2年	4月	15代	中島 孝祥	氏	就任
令和5年	4月	16代	岩澤 浩和	氏	就任
令和7年	4月	17代	伊従 丈二	氏	就任

6 常備消防のあゆみ

昭和15年	4月	愛川村町制施行「愛川町」となる
昭和30年	1月	愛川町と高峰村が合体合併して「愛川町」となる 人口 10,038人 世帯 1,802世帯
昭和31年	9月	愛川町と中津村が編入合併して、現在の「愛川町」となる 人口 14,321人 世帯 2,554世帯
昭和37年	3月	愛川町火災予防条例制定
昭和39年	2月	愛川町防災会議条例制定 愛川町災害対策本部条例制定
昭和42年	6月	役場管理課内に防災係を置き消防事務を司る
昭和44年	12月	消防指令車（日産VH130）1台購入
	3月	消防用超短波無線電話（基地局1基移動局1基）設置
昭和45年	4月	県衛生部より救急車の寄贈を受け専従救急隊員7名救急車1台をもって救急業務開始
	12月	役場の機構改革により防災消防課を設置、課長に馬場 安 氏就任
昭和47年	1月	神奈川県石油商業組合厚木支部より赤バイ1台（ホンダ125CC）寄贈
	2月	有線放送利用による緊急一斉指令装置設置
昭和48年	6月	消防用超短波無線電話機を基地局1基、移動局6基に切替え
	9月	防災消防課長 伊従 昭夫 氏 就任
昭和49年	4月	町長の諮問機関として消防審議会発足（審議終了まで） 構成人員 町議会議員 4名 行政區長 3名 消防団 3名
昭和50年	3月	愛川町消防本部設置条例制定
	5月	愛川町消防本部設置 初代消防長（事務取扱）助役 相馬 晴義 氏 初代消防本部次長 小島 助司 氏 消防長以下 15名 愛川町の5月1日現在の人口 24,494人 消防本部の位置 愛川町角田251番地1
昭和50年	8月	愛川町消防本部、署庁舎新築工事着工
	10月	県消防学校教官、佐藤賢龍氏の派遣を受け、署の創設業務と職員の教養指導を願った
昭和51年	3月	日本損害保険協会より救急自動車（トヨタ2B型）1台寄贈
	4月	愛川町消防庁舎竣工（鉄筋コンクリート2階建一部3階、延べ768.926㎡） 消防本部・署義務設置町村の政令指定を受ける 愛川町危険物の規制に関する規則制定 愛川町消防署設置 消防署の位置 愛川町角田251番地1 初代消防署長 小島 助司 氏 同 副署長 和田 英男 氏 ○組織 署長以下 22名 ○設備 消防ポンプ自動車1台、救急自動車 2台 消防指令車1台、赤バイ1台
	6月	愛川町消防救助技術大会開催
	7月	愛川町火災予防条例施行規則制定
	11月	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車（日産FH60型）1台寄贈 化学消防ポンプ自動車1台購入
昭和52年	2月	圧縮空気製造施設設置
	4月	消防署半原出張所設置 出張所の位置 愛川町半原105番地 初代半原出張所長 小島 助司 氏 ○組織 署員 10名 ○設備 消防ポンプ自動車 1台
	7月	第1回救急教室を家庭婦人対象に開催
	10月	初代消防長 相馬 晴義 氏 勇退 小島助司次長が消防長職務を代理する 防火管理者資格取得講習会を開催 水槽付消防ポンプ自動車1台購入（いすゞ）、半原出張所に配属
昭和53年	1月	2代消防長 馬場 安 氏 就任（消防署長兼任）
	9月	消防長車（トヨタ MS105）1台購入

昭和55年	8月	日本消防協会から広報車が寄贈（トヨタ）
昭和56年	2月	消防救急指令装置を設置
	3月	救急無線開局
昭和57年	1月	初期消火薬剤無償詰め替えに関する要項を制定
昭和58年	2月	救急車1台購入（トヨタ）
	4月	中津川河川敷に消防訓練場完成（面積 7,030m ² ）
昭和58年	6月	資機材搬送車1台購入（日産）
昭和59年	4月	3代消防長 小島 訥央 氏 就任
		3代消防署長 和田 英男 氏 就任
	7月	消防署半原出張所起工式を実施
	12月	消防署半原出張所開所式を実施
昭和60年	1月	消防署半原出張所落成式を実施
	4月	町防災行政無線試験放送開始
	8月	町防災行政無線放送開始
	12月	救助工作車を購入（三菱）
昭和61年	10月	日本損害保険協会より化学消防ポンプ自動車寄贈
昭和62年	3月	半原出張所の訓練塔完成
	4月	4代消防長 伊従 昭夫 氏 就任
	5月	消防指令車を購入（日産）
	11月	消防ポンプ自動車（CD-1型）を購入
昭和63年	4月	5代消防長 小島 助司 氏 就任
		消防署に通信班を設置
	9月	日本消防協会から救急車が寄贈
平成 元年	11月	消防広報車を購入（トヨタ）
		水槽付消防ポンプ自動車を購入、半原出張所に配属
平成 2年	4月	小島消防長が消防署長を兼任
	10月	小型動力ポンプ付積載車を購入、半原出張所に配属
		消防署発足15周年記念に伴う公開訓練を実施
平成 3年	1月	神奈川県消防長会会長表彰（救急活動）を第一警備隊が受賞
	3月	救急車1台購入（日産）
	7月	第20回関東地区消防救助技術指導会に出場 ロープブリッジ渡過の部
	8月	齋藤増雄副主幹が（財）全国消防協会会長表彰（教育訓練関係功労）を受賞
平成 4年	4月	6代消防長 高木 繁太郎 氏 就任（消防署長兼任）
	7月	第21回関東地区消防救助指導会に2種目出場 ほふく救出の部 ロープ応用登はんの部
	11月	社会福祉施設ミノワホームで消防署・団合同で火災防ぎょ訓練を実施
平成 5年	2月	地震防災アンケート調査を実施
	3月	防災指導員の視察研修を実施
		消防職員の制服等の規則改正（アポロキャップ等）
	11月	普通救命講習会を実施
平成 6年	2月	指揮車（ニッサン E-FEGE24）1台購入
	4月	7代消防長 和田 武 氏 就任
		6代消防署長 齋藤 増雄 氏 就任
		応急手当指導員講習会を実施
	7月	第23回関東地区消防救助技術指導会へ出場 ロープ応用登はんの部 上級救命講習会を実施
平成 7年	1月	阪神・淡路大震災の発生に伴い、8名の職員を応援救助活動に派遣
	2月	愛川町消防署救急競技会を北里大学病院救命救急センターの医師をコメンテーターに 招き実施
	3月	神奈川県消防長会会長表彰（功労部隊）を本署第2警備隊が受賞
		地震防災アンケート調査を実施
	4月	カルソニック（株）厚木工場、エイボン・プロダクツ（株）より資機材搬送車1台が 寄贈される
	7月	日本消防協会より救急車（2B型）が寄贈
	11月	消防署発足20周年記念公開訓練を実施
		ひとり暮らし高齢者宅の耐震診断を実施
平成 8年	1月	消防本署及び半原出張所増改築完成

平成 8年	3月	高規格救急車（ニッサン E-FEGE24）1台購入 愛川町消防安全管理規程を制定
	4月	本署高規格救急車の運用を開始 半原出張所を半原分署に名称変更し、救急隊を配備
	7月	第25回関東地区消防救助技術指導会へ3種目出場（東京） ロープ応用登はんの部（落合 宏明、長谷川 晴之 組） ロープブリッジ渡過の部 ほふく救出の部
	8月	日本消防協会よりD-1ポンプ2台寄贈 愛川町で初めて第25回全国救助技術大会へ出場（札幌市） ロープ応用登はんの部（落合 宏明、長谷川 晴之 組）
	11月	飲料水兼用耐震性貯水槽（40t）2基設置 愛川町危険物安全協会20周年記念事業開催
平成 9年	3月	消防署、消防団合同による同時多発火災を想定した火災防御訓練を実施 竹松主幹が消防庁長官表彰（永年勤続）を受賞 愛川町地域防災計画の抜本修正
	7月	第26回関東地区消防救助技術指導会へ2種目出場（千葉市） はしご登はんの部 ロープブリッジ渡過の部
	8月	第26回全国消防救助技術大会へ2種目出場（千葉市） はしご登はんの部（中村 啓一） ロープブリッジ渡過の部（森 秀作）
	11月	飲料水兼用耐震性貯水槽（40t）1基設置（下新久）
	12月	化学消防ポンプ自動車（日野 KC-GD1JG II型）を更新
平成 10年	3月	防災マップ・防災小冊子を作成し、全世帯に配布 消防職員服務規程の改正 春日台区が優良自主防災組織として県知事表彰を受賞
	6月	宮ヶ瀬湖の誕生式開催
	8月	台風4号接近のため町防災訓練が中止
	10月	第53回国民体育大会秋季大会の警備を実施（25日～29日）
	11月	町文化会館に於いて、応急手当発表会を実施
	12月	消防ポンプ自動車（いすゞ KC-NKR71 CD-I型）を更新
平成 11年	3月	飲料水兼用耐震性貯水槽（40t）2基設置（高峰小・中津小） 愛川町地域防災計画の一部を改訂
	7月	第28回関東地区消防救助技術指導会へ出場（横浜市） ロープ応用登はんの部（山口 淳、落合 宏明 組）
	11月	ドクターヘリ要請活動開始
	12月	救助工作車（三菱 KK-FK61H II型）を更新
平成 12年	5月	『私もわが家の救急隊員の町 愛川』推進大会を実施
	7月	第29回関東地区消防救助技術指導会へ2種目出場 はしご登はんの部（森田 貴久） ロープブリッジ渡過の部（齋藤 秀和）
	8月	第29回全国消防救助技術大会へ出場（熊本市） はしご登はんの部（森田 貴久）
	11月	神奈川県・愛川町合同林野火災総合訓練を実施
	12月	半原分署へ高規格救急車（トヨタ GEVCH38S）を配備
平成 13年	3月	半原分署第1救急分隊が（財）県消防長会会長表彰（功労部隊）を受賞
	4月	8代消防長 和田 英男 氏 就任
	5月	「応急手当普及推進の町 愛川」宣言大会
	7月	第30回関東地区消防救助技術指導会へ出場 ロープブリッジ渡過の部（齋藤 秀和）
		半原分署消防ポンプ自動車（三菱KK-FG53EC・CD-I型）を購入
平成 14年	1月	「第6回防災まちづくり大賞」（昭和52年創設）に於いて、「応急手当普及推進の町」を 全国ではじめて宣言し活動などが認められ、「消防科学総合センター理事長表彰」を受賞
	3月	本署第一警備隊 救急分隊が県消防長会表彰（消防功労部隊）を受賞 地域防災計画一部改訂
	10月	消防指令車（トヨタ TA-GXS12）を購入
平成 15年	3月	消防長 和田 英男 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞
	4月	7代消防署長 大野 哲 氏 就任

平成15年	7月	第32回関東地区消防救助技術指導会へ2種目出場 はしご登はんの部(広川 哲) ほふく救出の部(伊従 丈二、小川 幸彦、櫻村 尚歩 組)
	8月	第32回全国消防救助技術大会へ出場(仙台市) ほふく救出の部(伊従 丈二、小川 幸彦、櫻村 尚歩 組)
	9月	新消防庁舎建設工事着工(2ヶ年事業で実施)
	12月	本署高規格救急車(トヨタ TCVCH38S)を更新
平成16年	3月	齋藤次長が消防庁長官表彰(永年勤続功労章)を受章
	4月	9代消防長 平本 典夫 氏 就任
	7月	第33回関東地区消防救助技術指導会へ2種目出場 ロープ応用登はんの部(沼田 将明、岡本 貞治 組) ほふく救出の部(伊従 丈二、小川 幸彦、湯澤 勇人 組)
	8月	第33回全国消防救助技術大会へ2種目出場(三木市) ロープ応用登はんの部(沼田 将明、岡本 貞治 組) ほふく救出の部(伊従 丈二、小川 幸彦、湯澤 勇人 組)
	11月	資機材搬送車(日産 TC-SH4F23)を更新
平成17年	3月	消防庁舎移転 消防庁舎の位置 愛川町角田286番地の1 「高機能消防通信指令システム」を導入 足立原副署長が消防庁長官表彰(永年勤続功労章)を受章 地域防災計画一部改訂
	7月	新町発足50周年の年に「消防・防災フェスティバル」を開催 家族連れなど、約1,000名の住民が来場 町内5箇所(第1号公園体育館、三増公園陸上競技場、田代運動公園、中津レディースプラザ、ラビンプラザ)の公共施設に自動体外式除細動器(AED)を配備を開始
	9月	広報車(日産:DBA-E11)を更新
平成18年	3月	「第10回防災町づくり大賞」表彰式において、春日台シルバー消防隊が消防科学センター理事長賞を受賞 小野司令長が消防庁長官表彰(永年勤続功労章)を受章
	4月	10代消防長 齋藤 増雄 氏 就任
	10月	国のモデル事業として、災害対策本部運営訓練を実施
平成19年	3月	大野司令が消防庁長官表彰(永年勤続功労章)を受章
平成20年	3月	吉川司令及び沼田司令が消防庁長官表彰(永年勤続功労章)を受章
	8月	第37回全国消防救助技術大会へ出場(北九州市) ロープ応用登はんの部(沼田 将明、岡本 貞治 組)
	11月	自動心臓マッサージ器を搭載した半原分署高規格救急車(トヨタCBF-TRH226S)を更新 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練(横浜市)に参加
平成21年	3月	齋藤消防長が消防庁長官表彰(功労章)を受賞 齋藤消防長が神奈川県消防長会会長表彰(消防特別功労章)を受章 半原分署救急隊2隊が神奈川県消防長会会長表彰(消防功労部隊)を受賞
	4月	8代消防署長 沼田 直己 氏 就任
	8月	齋藤消防長が全国消防長会表彰(消防特別功労表彰)を受賞
	8月	消防庁舎排水設備(下水道接続)工事完了
平成22年	3月	齋藤消防長が全国消防長会表彰(永年勤続功労章)を受章 成瀬司令が消防庁長官表彰(永年勤続功労章)を受章 本署警備第1課第1救急隊が神奈川県消防長会会長表彰(消防功労部隊)を受賞
	4月	11代消防長 小島 治重 氏 就任 9代消防署長 吉川 正美 氏 就任
	11月	本署高規格救急車(トヨタCBF-TRH226S)を更新
平成23年	3月	荻田司令が消防庁長官表彰(永年勤続功労章)を受章 本署警備第1課第1救急隊・消防隊が神奈川県消防長会会長表彰(消防功労部隊)を受賞 東日本大震災の発生に伴う、緊急消防援助隊を派遣(宮城県仙台市宮城野地区)
	4月	12代消防長 大貫 佳孝 氏 就任
	11月	奈良司令が全国優良消防職員表彰を受賞
平成24年	3月	梅澤司令補が関東地区支部優良消防職員表彰を受賞 本署警備第1課第1救急隊・消防隊が神奈川県消防長会会長表彰(救急功労部隊)を受賞
平成24年	4月	13代消防長 沼田 直己 氏 就任

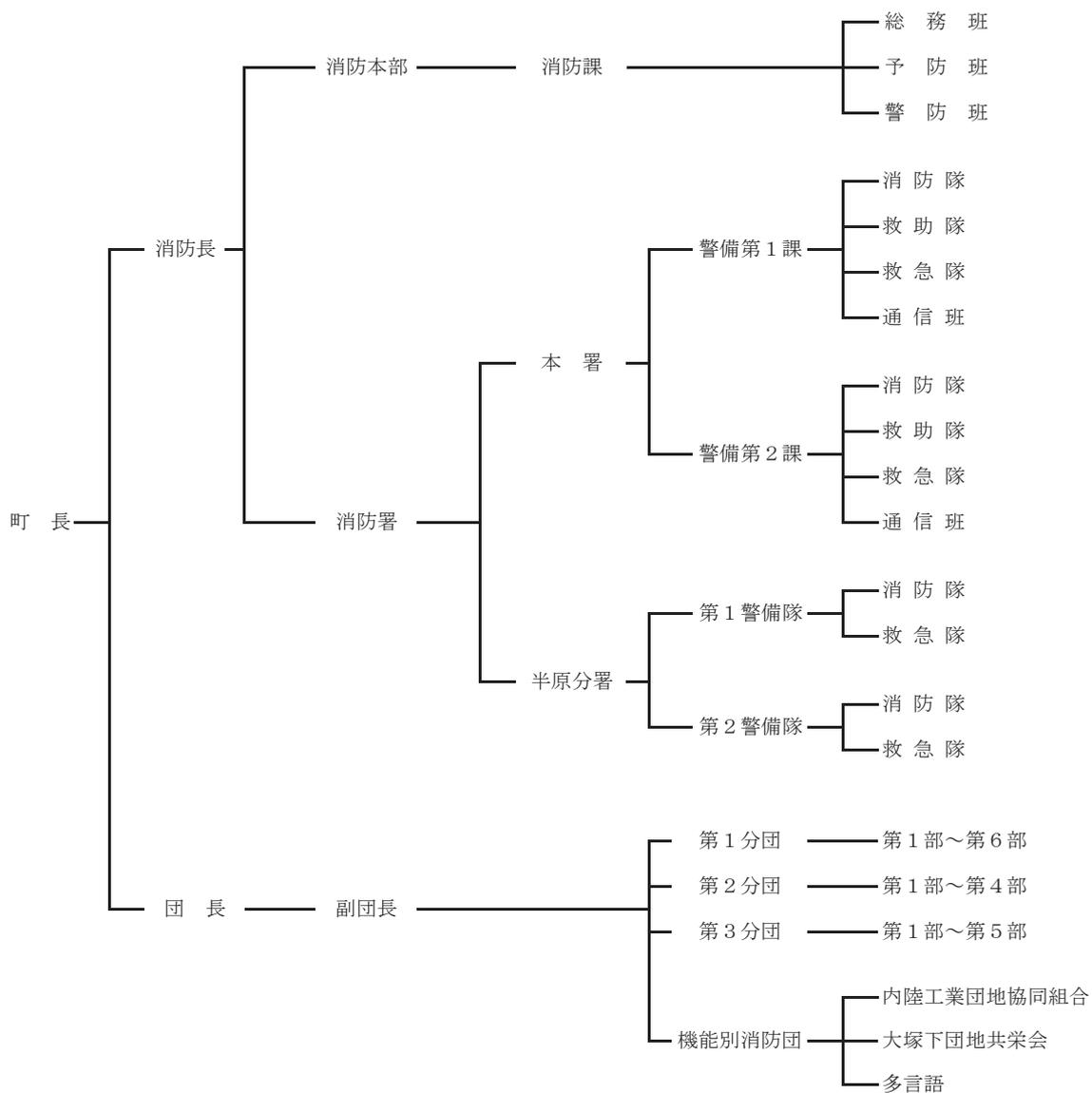
平成24年	4月	町内公共施設の自動体外式除細動器（AED）を新機種に一新・貸出用1台を配備
	11月	元消防監（8代）和田 英男 氏が第19回危険業務従事者叙勲（端宝単光章）を受章
平成25年	1月	平成24年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練（埼玉県）に参加（高規格救急車・搬送車） 愛川町防災講演会を町文化会館で開催。（406名参加） 講師：市民防災ラボ代表 玉木 貴 氏 演題：助かる命を守る共助、地域防災はじめての一步
	8月	第42回全国消防救助技術大会に出場（広島市） ロープ応用登はんの部（沼田 将明、原田 良亮 組）
	12月	化学消防ポンプ自動車（日野 TKG-XZU685M II型）を更新
平成26年	2月	親子防災教室（宿泊）を社会福祉協議会と共催で実施
	3月	愛川町消防本部・愛川町消防団が消防庁長官表彰（竿頭綬）を受章 消防署警備第2課長 石井 利明 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 愛川町職員定数条例の一部を改正（初任教育中の職員除外） 愛川町消防長及び消防署長の資格を定める条例の制定
	4月	10代消防署長 荻田 康也 氏 就任
	8月	11代消防署長 梅澤 幸司 氏 就任
	11月	元司令長 竹松 正男 氏が第23回危険業務従事者叙勲（端宝単光章）を受章
平成27年	3月	消防署副署長兼警備第1課長 奈良 隆敏 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 神奈川県消防長会会長表彰（功労部隊）を本署警備第1課が受賞
	4月	機構改革により課名を「消防課」に変更 町部局に危機管理室が新設されたことに伴い「防災対策班」が廃止 「予防警備班」が「予防班」と「警備班」に分割 愛川町火災予防条例施行規則の一部を改正 機構改革に伴い、愛川町消防事務決裁規程、愛川町消防安全管理規程、愛川町消防表彰規程の一部を改正 愛川町消防吏員の服制等に関する規則の一部を改正（救助服の追加） 愛川町消防本部警防規程の制定 元司令長 小野 賢二 氏が第24回危険業務従事者叙勲（端宝単光章）を受章
	5月	沼田消防長が全国消防長会表彰（消防特別功労表彰）を受賞
平成28年	3月	消防署長 梅澤 幸司 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 神奈川県消防長会会長表彰（功労部隊）を本署警備第2課が受賞 消防救急デジタル無線（活動波）運用開始 愛川町消防署の組織に関する規程の一部を改正（分隊長に充てる職員に消防士長を追加）
	4月	14代消防長 梅澤 幸司 氏 就任 12代消防署長 奈良 隆敏 氏 就任 愛川町消防本部警防規程の改正（警防対策本部の設置） 愛川町火災予防条例施行規則の一部を改正（行政不服審査法の改正に伴うもの）
	11月	元司令長 大野 哲 氏が第27回危険業務従事者叙勲（端宝単光章）を受章
	12月	分署高規格救急車（トヨタCBF-TRH226S）を更新
平成29年	3月	消防署副署長兼本署警備第2課長 近藤 良 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 神奈川県消防長会会長表彰（功労部隊）を本署警備第1課、半原分署第1警備隊が受賞 愛川町消防署の組織に関する規程の一部を改正（分隊を廃止及び分隊長を副隊長に変更）
	4月	13代消防署長 新倉 哲夫 氏 就任 愛川町消防吏員の服制等に関する規則の一部を改正（女性消防吏員の対応等） 愛川町消防本部の組織等に関する規則の一部を改正（次長の廃止等） 愛川町事務決裁規程、愛川町消防本部警防規程及び愛川町予防違反処理規程の一部改正（次長の廃止等） 愛川町消防通信運用管理規程の一部改正 高機能消防通信指令システムを更新し統合型位置情報通知装置を導入 愛川高校ファイヤーガードクラブの発足
	5月	梅澤消防長が全国消防長会表彰（消防特別功労表彰）を受賞
	8月	消防司令 石川 省吾 氏が全国優良消防職員表彰を受賞
	10月	平成29年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練（群馬県）に参加（ポンプ車・搬送車）
	11月	元司令長 齋藤 増雄 氏が第29回危険業務従事者叙勲（端宝双光章）を受章 本署高規格救急車（トヨタCBF-TRH226S）を更新
平成30年	3月	消防署長 新倉 哲夫 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 消防司令補 茅 英樹 氏が神奈川県消防長会会長表彰（消防功労者表彰）を受賞 田代婦人消防クラブが日本消防協会会長表彰（優良婦人消防隊）を受賞
	4月	15代消防長 石川 省吾 氏 就任 愛川町消防本部の組織等に関する規則、愛川町消防本部消防職員委員会に関する規則、 愛川町消防事務決裁規程、愛川町消防表彰規程及び愛川町消防安全管理規程の一部改正 （庶務班を総務班、警備班を警防班に改める）
平成30年	11月	半原分署消防ポンプ自動車（日野TKG-XZU685M・CD-I型）を更新

平成30年11月	平成30年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練開催（神奈川県）
平成31年3月	本署警備第1課長 島崎 光男 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 半原分署長 菊地原 邦夫 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章
4月	14代消防署長 岩本 誠 氏 就任 愛川町消防本部消防職員委員会に関する規則の一部を改正
令和元年5月	緊急時の多言語通訳サービスの運用開始（17言語対応）
9月	通信指令室に聴覚障がい者用通報システム「Net119緊急通報システム」を導入
令和2年3月	本署警備第2課救急隊が神奈川県消防長会会長表彰（消防功労団体）を受賞 消防士長 樫村 尚歩 氏が神奈川県消防長会会長表彰（消防功労者表彰）を受賞 消防長 石川 省吾 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章
4月	16代消防長 岩本 誠 氏 就任 15代消防署長 中島 孝祥 氏 就任 消防課長 岩澤 浩和 氏が全国消防協会関東地区支部表彰（優良消防職員表彰）を受賞 愛川町消防事務決裁規程の一部改正
6月	愛川町AED設置事業所等登録要綱の制定
7月	大規模火災時における災害支援に関する協定を篠崎建材株式会社と締結
令和3年3月	本署警備第2課長 伊従 彰芳 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章
7月	静岡県熱海市土石流災害に伴う緊急消防援助隊を派遣（静岡県熱海市）
9月	愛川町職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正（感染症等業務）
令和4年1月	愛川町消防出初式を消防庁舎敷地内にて挙行
3月	消防署長 中島 孝祥 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章
5月	元消防司令 吉川 正美 氏が第38回危険業務従事者叙勲（瑞宝単光章）を受章
11月	元消防司令長 沼田 直己 氏が第39回危険業務従事者叙勲（瑞宝双光章）を受章 本署高規格救急車（トヨタCBF-TRH226S）を更新 神奈川工科大学との包括連携協定に基づく救急需要予測研究報告会の実施
令和5年4月	16代消防署長 岩澤 浩和 氏 就任 本町初の女性消防吏員2名採用
5月	公共施設等に設置しているAEDのうち、6箇所を屋外へ設置
7月	総務省消防庁「女性消防吏員活躍推進アドバイザー派遣事業」による研修を開催
8月	親子消防教室を開催
11月	令和5年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練（山梨県）に参加（救急小隊）
12月	救助工作車（日野2KG-GX2ABA）Ⅱ型を更新
令和6年1月	能登半島地震に伴う緊急消防援助隊を派遣（石川県）
3月	半原分署長 茅 英樹 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章
5月	元消防司令 新倉 哲夫 氏が第42回危険業務従事者叙勲（瑞宝単光章）を受章
6月	多文化共生事業として、店舗（2ヶ所）、児童館（2ヶ所）に屋外型AEDを設置
令和7年3月	大船渡市林野火災に伴う緊急消防援助隊を派遣（岩手県） 警備第2課長 曾我 和典 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章
令和7年4月	17代消防長 茅 英樹 氏 就任 17代消防署長 伊従 丈二 氏 就任

7 町民と消防

消防職員		70	人	消防ポンプ自動車	消防署	3	台	
消防団員		200	人	小型動力ポンプ付積載車	消防団	15	台	
消防職員 1人に対し	人口	562	人	消防ポンプ自動車 1台に対し	消防署	人口	13,117	人
	世帯	279	世帯			世帯	6,509	世帯
	面積	0.49	km ²			面積	11.43	km ²
消防団員 1人に対し	人口	197	人	小型動力ポンプ付 積載車 1台に対し	消防団	人口	2,623	人
	世帯	98	世帯			世帯	1,302	世帯
	面積	0.17	km ²			面積	2.29	km ²

8 消防機構図



9 常備消防の現勢

面 積	34.28	km ²
人 口	39,352	人
世 帯 数	19,526	世帯

(令和7年4月1日現在)

消防本部設置	昭和50年5月1日
消防署設置	昭和51年4月1日
分署設置	昭和52年4月1日

(平成8年4月1日から半原分署となる)

消防職員	70	名
------	-------	----	---

消防車両

消防指令車	1	台
広報車	1	台
化学消防ポンプ自動車	1	台
消防ポンプ自動車	2	台
救助工作車	1	台
高規格救急車	3	台
資機材搬送車	1	台
小型動力ポンプ付積載車	1	台

10 消防力の状況

各市町村における消防力は消防庁告示「消防力の整備指針」により、各市町村の人口・面積・地域性を考慮した消防力（消防の人員、施設、車両）の整備目標が定められています。

署所の状況

区分 基準数・現有数等	消防本部	消防署	分署
基準数	1	2	
現有数	1	1	1
不足数	0	0	
充足率	100%	100%	

消防車両の状況

区分 基準数・現有数等	消防ポンプ自動車	化学消防ポンプ自動車	救助工作車	はしご車	救急車
基準数	3	1	1	1	2
現有数	2	1	1	0	3
不足数	1	0	0	1	0
充足率	66%	100%	100%	0%	100%

※ 消防ポンプ自動車不足数1台については、化学消防ポンプ自動車をもって出動しています。

消防水利の基準

○消防水利は消防法第20条第1項の規定により、消防庁からの告示でその能力等の基準が定められています。この基準は、地図上で町内の市街化区域、準市街化区域等を一定の間隔でメッシュ状に区画分けした総数を基準数とし、区画単位で一定の能力を満たした消防水利が含まれる場合を充足数としています。

基準数（区画）	充足数（区画）	不足数（区画）	充足率
403	381	22	94.5%

1 1 消防庁舎の現況

区 分	所 在 地	構 造	敷地面積	建築面積	延 面 積	竣工年月日
本部・本署	愛川町角田	鉄筋コンクリート造 3階	3,032.90m ²	1,009.66m ²	2,509.82m ²	H17.3.13
	286番地の1			(訓練塔) 49.18m ²	(訓練塔) 180.00m ²	
半原分署	愛川町半原	鉄筋コンクリート造 2階	1,228.48m ²	277.51m ²	457.87m ²	S60.1.25
	1620番地			(消毒室兼倉庫) 32.00m ²	(消毒室兼倉庫) 32.00m ²	H8.1.25

1 2 消防車両保有状況

区 分	車 両 別	型 式	購入等 年月	車両番号	排気量 (CC)	燃料の 種 類	ポ ン プ		備 考
							社 名	級 別	
本 部	消 防 指 令 車	トヨタ TA-GXS12	H14.10	相模800 さ7217	1,980	ガソリン			
	広 報 車	ニッサン DBE-E11	H17.9	相模800 す1468	1,490	ガソリン			
本 署	化 学 消 防 ポンプ自動車	日野 LDG-FE7JGAA	H25.12	相模830 つ119	6,400	軽 油	ナカムラ 消防化学	A-2	積載水 搭載
	消 防 ポ ン プ 自 動 車	いすゞ KC-NKR71GN	H10.12	相模88 た9271	4,570	軽 油	日 本 機 械 工 業	A-2	
	救 助 工 作 車	日野 2KG-GX2ABA	R5.11	相模800 は1795	5,120	軽 油			4WD
	高 規 格 救 急 車	トヨタ 3BF-TRH226S	R4.10	相模830 ほ99	2,690	ガソリン			愛救1
	高 規 格 救 急 車	トヨタ CBF-TRH226S	H29.11	相模830 に99	2,690	ガソリン			愛救3
	資 機 材 搬 送 車	ニッサン TC-SH4F23	H16.11	相模800 す458	1,990	ガソリン			
分 署	消 防 ポ ン プ 自 動 車	日野 TKG-XZU685M	H30.11	相模800 せ2698	4,000	軽 油	長 野 ポ ン プ	A-2	積載水 搭載 4WD
	高 規 格 救 急 車	トヨタ CBF-TRH226S	H28.11	相模830 な99	2,690	ガソリン			愛救2
	小 型 動 力 ポ ン プ 付 積 載 車	ニッサン KC-SP8F23	H9.3	相模88 た5886	2,660	軽 油	ト ー ハ ッ ツ	B-3	

1 3 消防水利の状況

消防水利の種類は大きく分けて、上水道の給水管から水を出ることができる消火栓と、地中に水をためておく防火水槽の2種類に分けることができます。

消防水利が常時使用可能な状態を保つため、年間を通して水利調査を行い維持管理に努めています。

消防水利一覧

令和7年4月1日現在

区分		消火栓	防火水槽	その他の水利	
				耐震性鋼板プール ()は採水口付	飲料水兼用耐震性 貯水槽
管内別	第1分団第1部	17	16		
	第1分団第2部	26	12		1
	第1分団第3部	22	8	1 (1)	
	第1分団第4部	23	26		
	第1分団第5部	49	30		1
	第1分団第6部	49	22	2 (2)	
	小 計	186	114	3 (3)	2
本署管内	第2分団第1部	50	40	2 (2)	1
	第2分団第2部	33	54		
	第2分団第3部	23	21	1 (1)	
	第2分団第4部	28	19		
	小 計	134	134	3 (3)	1
	第3分団第1部	73	33	3 (2)	1
	第3分団第2部	64	56	1	1
	第3分団第3部	51	33		
	第3分団第4部	23	35		
	第3分団第5部	87	110	1	
	小 計	298	267	5 (2)	2
合 計		618	515	11 (8)	5
総合計		1, 149(8)			

総務関係



消防職員が手作りした「巳」

1 4 消防予算の概要

令和7年度の本町総予算額は、275億3,364万4千円（対前年度比3.8%増）となり、このうち一般会計予算額は、154億円（対前年度比6.2%増）となっています。

消防予算額は、10億518万2千円（対前年度比26%増）で、一般会計に占める割合は、6.5%となっています。

令和7年度の主要事業

1 消 防

- (1) 火災による「延焼させない」を目標とした消防訓練と予防広報の充実
- (2) 本署消防ポンプ自動車、資機材搬送車の更新
- (3) 消防及び救助資機材の更新
- (4) 火災原因調査職員の育成
- (5) 半原分署長寿命化施設整備工事

2 救 急

- (1) 応急手当普及事業の推進
- (2) メディカルコントロール体制の推進
- (3) 救急救命士の養成、再教育研修の実施
- (4) 救急車の適正利用の周知
- (5) 貸出用AEDの周知、AED登録事業所の拡大

3 予 防

- (1) ひとり暮らし高齢者世帯や福祉施設等の増加に伴う災害時避難困難者対策
 - ア 防火指導、広報による防火思想の普及推進
 - イ 立入検査による実態把握
- (2) 立入検査の充実
 - ア 防火対象物実施目標：30%
 - イ 危険物施設等実施目標：90%
 - ウ 立入検査員の育成
- (3) 住宅用火災警報器の設置・普及推進
 - 設置率目標：90%
- (4) 大型物流倉庫増加に伴う火災予防査察
 - 立入検査等による実態把握

4 消防団

- (1) 消防団員確保対策の推進
 - ア 基本団員の確保
 - イ 女性消防団員の加入促進
 - ウ 機能別消防団の充実
- (2) 消防団員の福利厚生の実施

一般会計予算と消防予算内訳

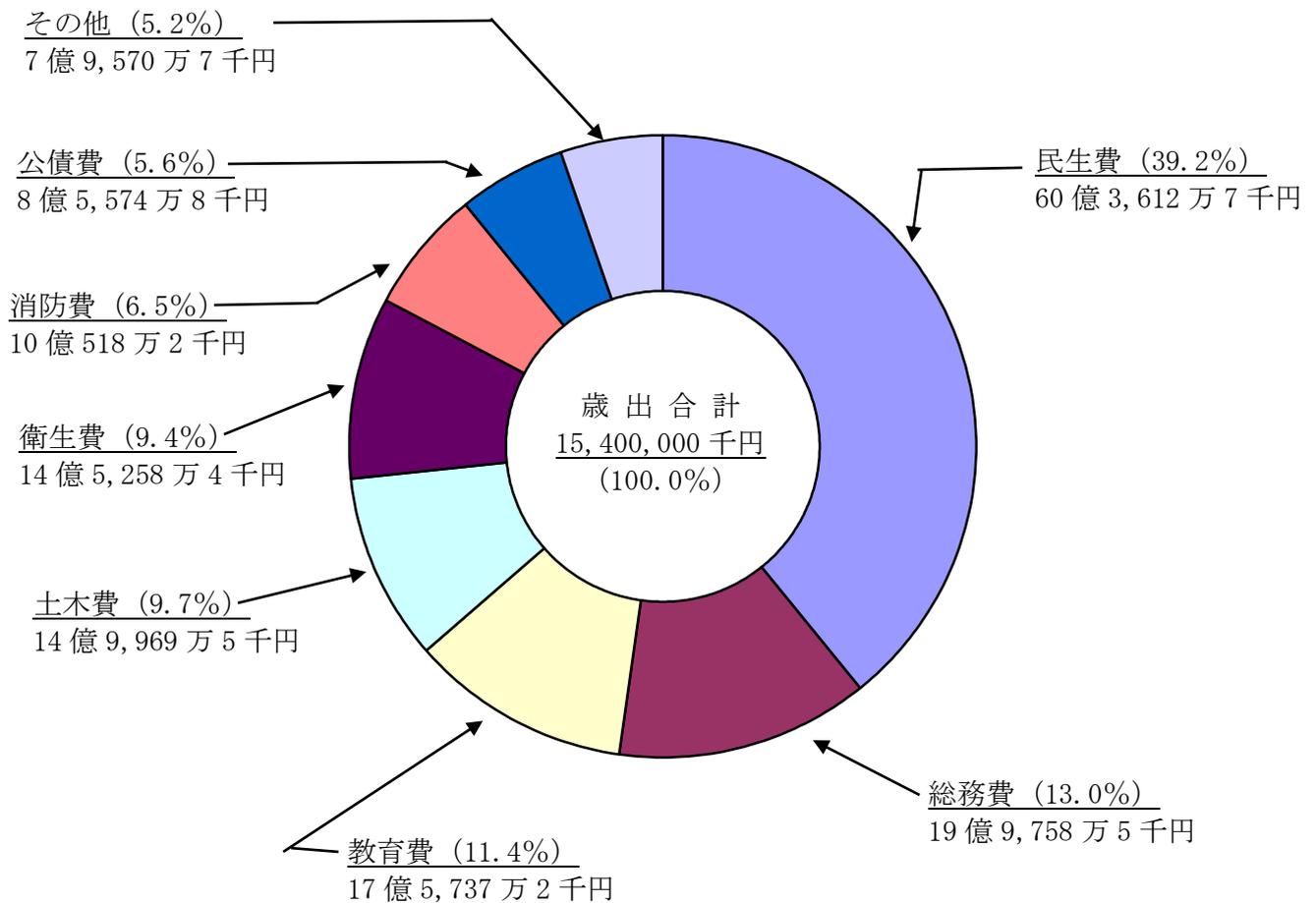
(単位:千円)

区 分		令和7年度	令和6年度	比較増減率(%)
町 一 般 会 計		15,400,000	14,504,000	6.2
消 防 費		1,005,182	797,603	26.0
内 訳	常 備 消 防 費	952,841	748,550	27.3
	非 常 備 消 防 費	52,172	48,884	6.7
	水 防 費	169	169	0.0

1.5 町予算歳出(目的別)構成図

令和7年度消防費 1,005,182千円

()内の数字は「%」を示す。



1 6 町予算と常備消防費との比較

(単位:千円)

年 度 別	町 一 般 会 計	常 備 消 防 費	構 成 比 (%)
令和元年度	12,410,000	623,304	5.0
令和2年度	12,470,000	629,396	5.0
令和3年度	13,155,000	622,749	4.7
令和4年度	13,472,000	721,583	5.4
令和5年度	13,823,000	769,078	5.6
令和6年度	14,504,000	748,550	5.2
令和7年度	15,400,000	952,841	6.2

1 7 消防職員勤務年数 (危機管理室出向除く)

(単位:人)

階 級 勤務年数	合 計	階 級						
		消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 務 職 員
合計(人員)	70	1	5	22	17	15	9	1
5年未満	9						9	
5年以上10年未満	7				2	5		
10年以上15年未満	19				9	10		
15年以上20年未満	2				2			
20年以上25年未満	6			2	4			
25年以上30年未満	2			2				
30年以上35年未満	14			14				
35年以上40年未満	11	1	5	4				1
40年以上	0							

1 8 消防職員年齢状況（危機管理室出向除く）

（単位：人）

階 級 年 齢	合 計	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 務 職 員
合 計（人 員）	7 0	1	5	2 2	1 7	1 5	9	1
2 0 歳 未 満	1						1	
2 0 歳 以 上 2 5 歳 未 満	1 2					5	7	
2 5 歳 以 上 3 0 歳 未 満	1 1				2	8	1	
3 0 歳 以 上 3 5 歳 未 満	1 0				8	2		
3 5 歳 以 上 4 0 歳 未 満	1				1			
4 0 歳 以 上 4 5 歳 未 満	8			2	6			
4 5 歳 以 上 5 0 歳 未 満	9			9				
5 0 歳 以 上 5 5 歳 未 満	1 1		1	1 0				
5 5 歳 以 上 6 0 歳 未 満	7	1	4	1				1
平 均 年 齢	38.3	58.0	56.4	49.9	34.9	26.0	22.2	58.0

1 9 消防職員居住別（危機管理室出向除く）

（単位：人）

居住地別 階級別	合 計	構 成 比 （ % ）	愛 川 町 内							町 外
			半 原	田 代	三 増	角 田	中 津	八 菅・ 棚 澤	春 日 台	
合計（人員）	7 0	100.0	1		1	5	1 5		3	4 5
消防司令長	1	1.4					1			
消 防 司 令	5	7.2			1	2	1			1
消防司令補	2 2	31.4	1			1	4		1	1 5
消 防 士 長	1 7	24.3					5			1 2
消防副士長	1 5	21.4				1	3		1	1 0
消 防 士	9	12.9				1	1		1	6
事 務 職 員	1	1.4								1

20 消防職員採用状況

(単位：人)

年度別 区分	令 和							平 成		
	7	6	5	4	3	2	元	30	29	28
定 数	68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
実 員	70	70	70	68	67	67	67	68	68	67
事務職員	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1
退職職員	1		1	3	2	5	2	4	4	1
新採用職員	2	1	4	3	5	1	4	4	3	5

※ 実員には事務職員を含み、町部局への出向職員（2名）は含みません。

※ 愛川町職員定数条例第2条第2項及び第3項により新採用職員は定数には含みません。（上記表の実員数には新採用職員は含まれています。）

21 職員研修等の状況

社会情勢の変化に伴い、複雑多様化する災害に的確に対処していくため、公務の基礎的知識はもとより、より高度な知識・技術の修得、広い視野に立った判断力と環境変化への適応力の育成のため教育研修に参加するとともに、自己啓発の促進を図り、町民全体の奉仕者としての自覚と職員個々の資質の向上を図っています。

消防学校教育

種 別	教 育 科 目	期 間	回 数	人 員
初 任	教 育	6ヶ月	1	3
専科教育	救 急 科	42日	1	3
専科教育	救 助 科	20日	1	1
専科教育	火災調査科公開講座	1日	1	2
特別教育	火 災 性 状	5日	1	1

研 修 等

研 修 科 目	人 数	日 数 等	研 修 場 所
救急救命士新規養成課程	1名	6ヶ月	救急救命東京研修所
救急救命士就業前病院実習	1名	1ヶ月	東海大学医学部付属病院
救急救命士再教育研修	14名	1名：48時間	東名厚木病院
救急救命士気管挿管病院実習	1名	1名：30症例	東名厚木病院
救急救命士気管挿管再教育	4名	1名：1症例	東名厚木病院
救急救命士ビデオ喉頭鏡実習	1名	1名：2症例	東海大学医学部付属病院

庁内外研修等

研 修 科 目	人 数	日 数 等	研 修 場 所
令和6年度県央都市消防行政協議会消防職員教養研修会	7名	1日	綾瀬市消防本部3階
ハラスメント研修	18名	1日	消防庁舎3階大会議室
リーダー・監督者研修	27名	1日	消防庁舎3階大会議室

2 2 消防職員特殊技能有資格者

(消防学校教官派遣及び他課出向者を除く)

	階 級 別							所 属 別			合 計	
	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 務 職 員	消 防 本 部	消 防 署 本 署	半 消 防 原 分 署		
実 員	1	5	22	16	15	9	1	9	40	20	69	
運 転 免 許	普 通				4	6			6	4	10	
	普 通 (A T 限 定)											
	準 中 型 (5 t 限 定)				4	2	1	2	4	3	9	
	中 型 (8 t 限 定)			1	2				2	1	3	
	大 型	1	5	21	10	9	1	7	28	12	47	
	大 型 特 殊			3					1	2	3	
	け ん 引			2						2	2	
	普 通 自 動 二 輪		4	9	8	5	3	1	5	19	6	30
	大 型 自 動 二 輪		1	4	1				1		5	6
危 険 物 取 扱 者	甲 種			1					1		1	
	乙 種	1 類										
		2 類										
		3 類			2		1	2		4	1	5
		4 類		2	20	16	12	5	6	33	16	55
		5 類			2					1	1	2
	6 類			2					1	1	2	
丙 種	1	4	3				2	3	3	8		
消 防 設 備 士			1					1			1	
特 殊 無 線 技 士	1	5	22	16	15	6		8	37	20	65	
潜 水 士	1	4	10	7	8	1		5	19	7	31	
小 型 船 舶 操 縦 免 許		3	12	3		3		2	12	7	21	
高 圧 ガ ス 製 造 保 安 責 任 者												
小 型 移 動 式 ク レ ー ン 運 転 技 能	1	5	20	6	6			7	23	8	38	
玉 掛	1	3	21	5	4	2		7	20	9	36	
救 急 救 命 士	1		4	10	3	1		1	10	8	19	
応 急 手 当 指 導 員 証	1	5	22	16	15	3		8	34	20	62	
酸 素 欠 乏 ・ 硫 化 水 素 危 険 作 業 主 任 者		2	11	5	2			3	16	1	20	
酸 素 欠 乏 作 業 主 任 者	1		1					1		1	2	
アーク溶接技能講習修了証												
ガ ス 溶 接 技 能 講 習 修 了 証	1	4	5					1	5	4	10	
特 定 化 学 物 質 及 び 四 ア ル キ ル 鉛 等 作 業 主 任 者		1	1		1			1	1	1	3	
予 防 技 術 者		2	2	2	1			1	5	1	7	
車 両 系 建 設 機 械 運 転 技 能			1							1	1	
有 機 溶 剤 作 業 主 任 者			2						2		2	
足 場 組 立 主 任			1	1					1	1	2	
レ ス キ ュ ー 3		2	5	6	3			4	9	3	16	
防 災 士	1	3	16	4	1	2		6	14	7	27	
伐 木 等 業 務 特 別 教 育	1	1	6	8	5			5	11	5	21	
刈 払 機 取 扱 作 業 者 安 全 衛 生 教 育		1	9	5	2			2	8	7	17	
ロ ー プ 高 所 作 業 特 別 教 育		2	4	4	3			4	4	5	13	
足 場 の 組 立 等 特 別 教 育		4	8	11				1	12	10	23	
フ ル ハ ー ネ ス 型 墜 落 制 止 用 器 具 特 別 教 育	1	3	17	14	9	1		7	30	8	45	
巻 き 上 げ 機 の 運 転 業 務			1	4	3	1		1	8		9	

予 防 関 係

令和6年度 愛川町防火ポスター入選作品



愛川町消防本部・署・団  愛川町防火・防災協会

町立小・中学校の児童・生徒から募集した防火ポスターの入選作品及び事業所から募集した防火標語の入選作品をポスターにして、事業所等へ配布しました。

2 3 火災予防の概要

火災から町民の尊い生命、大切な財産を守るため、火災予防運動・危険物安全週間等の各種行事及び事業所への立入検査を通して、自主防火管理体制の確立強化、火災予防思想の普及に努めています。また、火災予防広報や高齢者世帯への防火訪問等を実施し火災の発生防止に努めています。

1 立入検査

(令和7年3月31日現在)

区 分	総数	実施数	実施率
防火対象物（棟）	1,439	384	26.7 %
危険物施設（施設）	257	203	79.0 %
危険物運搬車両等（台）	26	26	100.0 %
特別査察（対象物等）		0	

2 防火指導（消防用設備取扱講習会含む）

区 分	参加人員数等		実施時期
事業所等	30回	2,255名	通年
保育園	6園	352名	秋季火災予防運動
幼稚園	3園	377名	春季火災予防運動
屋内消火栓取扱講習会	23事業所	53名	令和6年10月

3 体験学習等

区 分	参加人員数等	実施時期
中学2年生職場体験	10名	令和6年11月
町内小学3年生	292名	令和7年1月

4 少年消防クラブ活動

区 分	参加人員数	実施時期
夜回り広報	21名	令和7年3月

5 防火ポスターの募集

区 分	応募数	特別賞
小・中学校応募作品数	291点	5点

6 火災予防広報

乾燥注意報の発表時など、火災の発生しやすい気象状況時において消防車両を利用したの広報や、年2回の火災予防運動週間中に火災予防看板を掲出し、火災発生防止の注意喚起に努めています。

24 立入検査実施状況

(令和7年3月31日現在)

区 分		防火対象物総数	立入検査実施数	指導対象数	改善報告数
合 計		1,439	384	90	70
1	イ 劇場、映画館、演芸場、観覧場	2			
	ロ 公会堂又は集会場	30	3	1	1
2	イ キャバレー、カフェ、これらの類				
	ロ 遊技場又はダンスホール	2	2	1	1
	ハ 風俗営業等、これらの類				
	ニ カラオケボックス、これらの類				
3	イ 待合、料理店、これらの類				
	ロ 飲食店	15	7	3	2
4	百貨店、店舗又は展示場	59	24	7	4
5	イ 旅館、ホテル又は宿泊所	13	13	4	2
	ロ 寄宿舎、下宿又は共同住宅	369	1	1	0
6	イ 病院、診療所又は助産所	10	6		
	ロ 養護老人ホーム、有料老人ホーム等	19	16	2	2
	ハ 老人福祉施設、児童福祉施設等	25	17	3	3
	ニ 幼稚園、盲学校、これらの類	7	6	1	1
7	学校（小・中・高・大）、各種学校	22	19	19	16
8	図書館、博物館、美術館、これらの類	4	4	1	1
9	イ 蒸気浴場、熱気浴場				
	ロ イ以外の公衆浴場				
10	車両の停車場等				
11	神社、寺院、教会等、これらの類	4			
12	イ 工場又は作業場	316	119	30	24
	ロ 映画スタジオ又はテレビスタジオ				
13	イ 自動車の車庫又は駐車場	11	5	0	
	ロ 飛行機又は回転翼航空機の格納庫				
14	倉庫	220	65	12	8
15	前各項に該当しない事業場	168	62	2	2
16	イ 複合用途防火対象物のうち、その一部が(1)項から(4)項まで、(5)項イ、(6)項又は(9)項イに掲げる防火対象物の用途に供されているもの	98	10	1	1
	ロ イ以外が存在する複合用途防火対象物	45	5	2	2
17	重要文化財				

※記載している防火対象物数は延べ面積150㎡以上の防火対象物です。

25 防火対象物・防火管理状況

(令和7年3月31日現在)

防火対象物区分		項目	消防法 第8条 該当	防火管理者		消防計画		訓練実施 状況 (報告数)
				届出数	選任率 (%)	届出数	選任率 (%)	
合計			313	285	91.1	285	91.1	213
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場	2	2	100.0	2	100.0	0
	ロ	公会堂又は集会場	30	24	80.0	24	80.0	0
2	イ	キャバレー、カフェ、これらの類						
	ロ	遊技場又はダンスホール	2	2	100.0	2	100.0	4
	ハ ニ	風俗営業等、これらの類 カラオケボックス、その他遊興のための設備又は物 品を個室						
3	イ	待合、料理店、これらの類						
	ロ	飲食店	15	15	100.0	15	100.0	11
4		百貨店、店舗又は展示場	26	26	100.0	26	100.0	41
5	イ	旅館、ホテル又は宿泊所	13	13	100.0	13	100.0	4
	ロ	寄宿舎、下宿又は共同住宅	29	22	75.9	22	75.9	1
6	イ	病院、診療所又は助産所	4	4	100.0	4	100.0	2
	ロ	養護老人ホーム、有料老人ホーム等	18	16	88.9	16	88.9	19
	ハ	老人福祉施設、児童福祉施設等	16	15	93.8	15	93.8	24
	ニ	幼稚園、盲学校、これらの類	4	4	100.0	4	100.0	2
7		学校（小・中・高・大）、各種学校	10	10	100.0	10	100.0	12
8		図書館、博物館、美術館、これらの類	4	4	100.0	4	100.0	0
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場						
	ロ	イ以外の公衆浴場						
10		車両の停車場等						
11		神社、寺院、教会等、これらの類						
12	イ	工場又は作業場	55	52	94.5	52	94.5	54
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ						
13	イ	自動車の車庫又は駐車場						
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫						
14		倉庫	29	28	96.6	28	96.6	27
15		前各項に該当しない事業場	23	23	100.0	23	100.0	11
16	イ	複合用途防火対象物のうち、その一部が (1)項から(4)項まで、(5)項イ、(6)項又 は(9)項イに掲げる防火対象物の用途に供 されているもの	28	22	78.6	22	78.6	1
	ロ	イ以外が存在する複合用途防火対象物	5	3	60.0	3	60.0	0
17		重要文化財						

26 防火対象物定期点検報告を必要とする対象物

(令和7年3月31日現在)

防火対象物区分		項目	対象数 合計	点検を要する 防火対象物		点検基準適合 防火対象物		特例認定承認 防火対象物	
				収容人員 300人以上	特定 1階段	収容人員 300人以上	特定 1階段	収容人員 300人以上	特定 1階段
1項イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場	2	2		2				
1項ロ	公会堂又は集会場	3	3		3				
2項ロ	遊技場又はダンスホール	2	2		2				
4項	百貨店、店舗又は展示場	6	6		6		2		
5項イ	旅館、ホテル又は宿泊所	1	1		1				
6項イ	病院、診療所等	1	1		1				

27 建築確認申請等消防同意状況

(令和6年12月31日現在)

区 分		合 計	指導有	指導無	新築	増築	模様替	移転	その他
合 計		54	29	25	44	3	0	0	7
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場							
	ロ	公会堂又は集会場	1	1	1				
2	イ	キャバレー、カフェ、これらの類							
	ロ	遊技場又はダンスホール							
	ハ	風俗営業等、これらの類							
	ニ	カラオケボックス、その他遊興のための設備又は物品を個室							
3	イ	待合、料理店、これらの類							
	ロ	飲食店	1	1					1
4		百貨店、店舗又は展示場	3	3	2				1
5	イ	旅館、ホテル又は宿泊所	1	1					1
	ロ	寄宿舎、下宿又は共同住宅	1	1	1				
6	イ	病院、診療所又は助産所							
	ロ	養護老人ホーム、有料老人ホーム等	4	3	1	4			
	ハ	老人福祉施設、児童福祉施設等	2	2					2
	ニ	幼稚園、盲学校、これらの類							
7		学校（小・中・高・大）、各種学校							
8		図書館、博物館、美術館、これらの類							
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場							
	ロ	イ以外の公衆浴場							
10		車両の停車場等							
11		神社、寺院、教会等、これらの類							
12	イ	工場又は作業場	2	1	1	2			
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ							
13	イ	自動車の車庫又は駐車場							
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫							
14		倉庫	10	8	2	8	2		
15		前各項に該当しない事業場	7	1	6	7			
16	イ	複合用途防火対象物（特定用途含む）	2	2					2
	ロ	イ以外が存在する複合用途防火対象物	1	1		1			
		専用住宅（長屋住宅含む）・他	19	4	15	19			

28 中高層・高層建築物

(令和7年3月31日現在)

階別	合計	3階	4階	5階	6階	7階	8階
棟数	227	161	33	16	15	0	2

29 防災管理定期点検を必要とする対象物

(令和7年3月31日現在)

防火対象物区分	項目	合計	11階以上 延面積10,000㎡以上	5階以上10階以下 延面積20,000㎡以上	4階以下 延面積50,000㎡以上
	12項イ	工場又は作業所	3	0	2

30 消防用設備等届出状況

(令和7年3月31日現在)

区 分		着工届	設置届
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場	
	ロ	公会堂又は集会場	3 3
2	イ	キャバレー、カフェ、これらの類	
	ロ	遊技場又はダンスホール	
	ハ	風俗営業等、これらの類	
	ニ	カラオケボックス、これらの類	
3	イ	待合、料理店、これらの類	
	ロ	飲食店	1 1
4		百貨店、店舗又は展示場	5 8
5	イ	旅館、ホテル又は宿泊所	1 2
	ロ	寄宿舍、下宿又は共同住宅	
6	イ	病院、診療所又は助産所	1
	ロ	養護老人ホーム、有料老人ホーム等	5 4
	ハ	老人福祉施設、児童福祉施設等	3 4
	ニ	幼稚園、盲学校、これらの類	
7		学校（小・中・高・大）、各種学校	2
8		図書館、博物館、美術館、これらの類	2
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場	
	ロ	イ以外の公衆浴場	
10		車両の停車場等	
11		神社、寺院、教会等、これらの類	
12	イ	工場又は作業場	10 25
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ	
13	イ	自動車の車庫又は駐車場	
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫	1
14		倉庫	3 13
15		前各項に該当しない事業場	1 11
16	イ	複合用途防火対象物（特定用途）	
	ロ	16項イ以外の複合用途防火対象物	1 2
17		文化財	
合 計			34 83

31 予防関係諸届出状況

(令和7年3月31日現在)

区 分	合 計	本署管内	分署管内
防火対象物使用開始届出	25	20	5
少量危険物貯蔵取扱届出	15	14	1
指定可燃物貯蔵取扱届出	3	3	0
変電・発電・蓄電池等設備設置届出	14	12	2
炉・ボイラー等設置届出	15	14	1

3 2 倍数・類別危険物施設状況

(令和7年3月31日現在)

危険物施設所有事業所数 102 事業所

製造所等の別 倍数別・類別		合 計	製 造 所	貯 蔵 所						取扱所		
				屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	給 油	一 般
合 計		257	10	80	31	1	39	2	13	19	26	36
倍 数 別	5 倍以下	83	1	26	8		15	2	12	1	4	14
	5 倍超え 1 0 倍以下	56	1	18	6		12			6		13
	1 0 倍超え 5 0 倍以下	70	4	10	16	1	7			12	12	8
	5 0 倍超え 1 0 0 倍以下	14	3	7	1		2					1
	1 0 0 倍超え 1 5 0 倍以下	11		8					1		2	
	1 5 0 倍超え 2 0 0 倍以下	9		2			1				6	
	2 0 0 倍超え 1, 0 0 0 倍以下	8	1	3			2				2	
	1, 0 0 0 倍超え 5, 0 0 0 倍以下	6		6								
	5, 0 0 0 倍超え	0										

合 計		257	10	80	31	1	39	2	13	19	26	36	
類 別	単	第1類	1	1									
		第2類	0										
		第3類	0										
	独	第4類	246	8	71	31	1	39	2	13	19	26	36
		第5類	1		1								
		第6類	0										
	混 在		9	2	7								

※ 第4類…ガソリン、灯油、重油など石油類の危険物です。

3 3 危険物施設事務処理状況

(令和7年3月31日現在)

製造所等の別 区分		合計	製造所	貯蔵所						取扱所		
				屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋内外	給油	一般
許可・認可等	設置許可	1									1	
	変更許可	13	2	1	4						1	5
	設置の完成検査	1									1	
	変更の完成検査	11	2	1	4						1	3
	仮使用	12	2		4						1	5
	仮貯蔵・仮取扱	0										
	予防規程	2		1								1
各種届	譲渡・引渡届	0										
	品名・倍数変更届	14	1	6							1	6
	軽微な変更届	23	1	4	2		2				2	12
	保安監督者選解任	15	1	4		2	2				3	3
	名称変更届	8		2			2				1	3
	廃止届	0										

3 4 危険物完成検査前検査状況

(令和7年3月31日現在)

合計	水張検査 (10,000ℓ以下)	水張検査 (10,000ℓ超え)	水圧検査 (10,000ℓ以下)	水圧検査 (10,000ℓ超え)
319	316	3	0	0

3 5 危険物手数料状況

(令和7年3月31日現在)

区分 年度	合計	許可申請 (設置・変更)	完成検査 (設置・変更)	仮貯蔵 仮取扱	仮使用	水張検査 水圧検査
令和6年度	2,459,050	314,500	150,750	0	64,800	1,929,000
令和5年度	1,869,000	176,000	154,000	0	27,000	1,512,000
令和4年度	2,263,450	415,000	138,250	0	43,200	1,667,000
令和3年度	2,577,850	369,800	189,250	10,800	54,000	1,954,000
令和2年度	1,993,200	209,000	167,000	5,400	37,800	1,574,000
令和元年度	2,616,000	473,500	295,500	5,400	75,600	1,766,000

3 6 民間防火団体の活動概要

町では現在、「幼年消防クラブ」・「少年消防クラブ」・「田代区婦人消防クラブ」の民間防火団体、愛川高校在學生で構成する「愛川高校ファイヤーガードクラブ」があり、年間を通じて火災予防等の普及啓発活動を展開しています。

【幼年消防クラブ】

幼児期に火の大切さ、火の怖さなどの正しい火の取り扱いを身に付けて、火遊びによる火災を無くすとともに将来にわたり、健全な社会の一員となる基礎を養うことを目的とし、昭和59年に保育園単位で幼年消防クラブが結成されました。以降、「地域への火災予防の呼びかけ」や「防火訪問の開催」等を実施しています。

☆ 主な活動・・・防火訪問等

名 称	会員数	名 称	会員数
半原幼年消防クラブ	12	春日台幼年消防クラブ	15
田代幼年消防クラブ	10	中津幼年消防クラブ	14
高峰幼年消防クラブ	16	中津南幼年消防クラブ	17
6クラブ 合計 84名 (各クラブ 昭和59年4月1日 発足)			



【少年消防クラブ】

少年少女の頃より火災予防に関する知識、技能を養い、将来にわたり火災予防の成果を上げるため、町内小学校3年生で結成され、各種防火活動を通じて家庭、地域における防火啓発活動に努めています。

☆ 主な活動・・・消防署見学・夜回り広報等

名 称	会員数	発足年月日
少年消防クラブ	260	昭和56年8月20日



【愛川高校ファイヤーガードクラブ】

神奈川県立愛川高等学校の在校生を対象に、幅広く消防（防災）分野における体験学習を通じて、地域防災への意識高揚や消防防災力の強化を目的に、平成29年に発足しました。以降、「消防防災訓練」や「火災予防広報」等の活動を実施しています。

☆ 主な活動・・・消防防災訓練・火災予防広報等

名 称	会員数	発足年月日
愛川高校ファイヤーガードクラブ	21	平成29年5月29日



【婦人消防クラブ】

一般家庭からの火災を防止するため、家庭で使用する火気器具の知識及び通報、初期消火方法等を習得するとともに、地域における火災予防の啓発を図ることを目的に活動しています。

☆ 主な活動・・・防災訓練等

名 称	会員数	発足年月日
田代区婦人消防クラブ（休部中）	9	平成8年11月28日

警 防 関 係



「令和6年度ビッグレスキューかながわ」

37 火災概要

区 分	令和6年中	令和5年中	増減数	参 考		
				神奈川(令和5年中)	全国(令和5年中)	
出火件数(件)	合計	12	5	7	2,052	38,659
出火件数(件)	建物	6	1	5	1,245	20,968
	林野	0	0	0	9	1,290
	車両	2	0	2	195	3,523
	その他	4	4	0	600	12,819
	船舶	0	0	0	3	58
	航空機	0	0	0	0	1
	焼損棟数(棟)	合計	10	1	9	1,581
焼損棟数(棟)	全焼	5	0	5		
	半焼	0	1	△ 1		
	部分焼	2	0	2		
	ぼや	3	0	3		
焼損面積	建物 床面積(m ²)	2,320	43	2,277	28,648	1,017,598
	建物 表面積(m ²)	572	0	572	4,286	129,732
	林野 (a)	0	0	0	204	82,943
	枯草 (m ²)	1,211	2,275	△ 1,064		
り災世帯(世帯)	合計	8	0	8	1,242	18,767
	全損	5	0	5		
	半損	1	0	1		
	小損	2	0	2		
り災人員(人)	15	0	15			
損害額(千円)	74,761	8,759	66,002	5,291,510	93,915,275	
死者(人)	0	0	0	55	1,500	
負傷者(人)	1	0	1	355	5,731	
出火率(件/1万人当たり)	3.1	1.3	1.8	2.23	3.08	

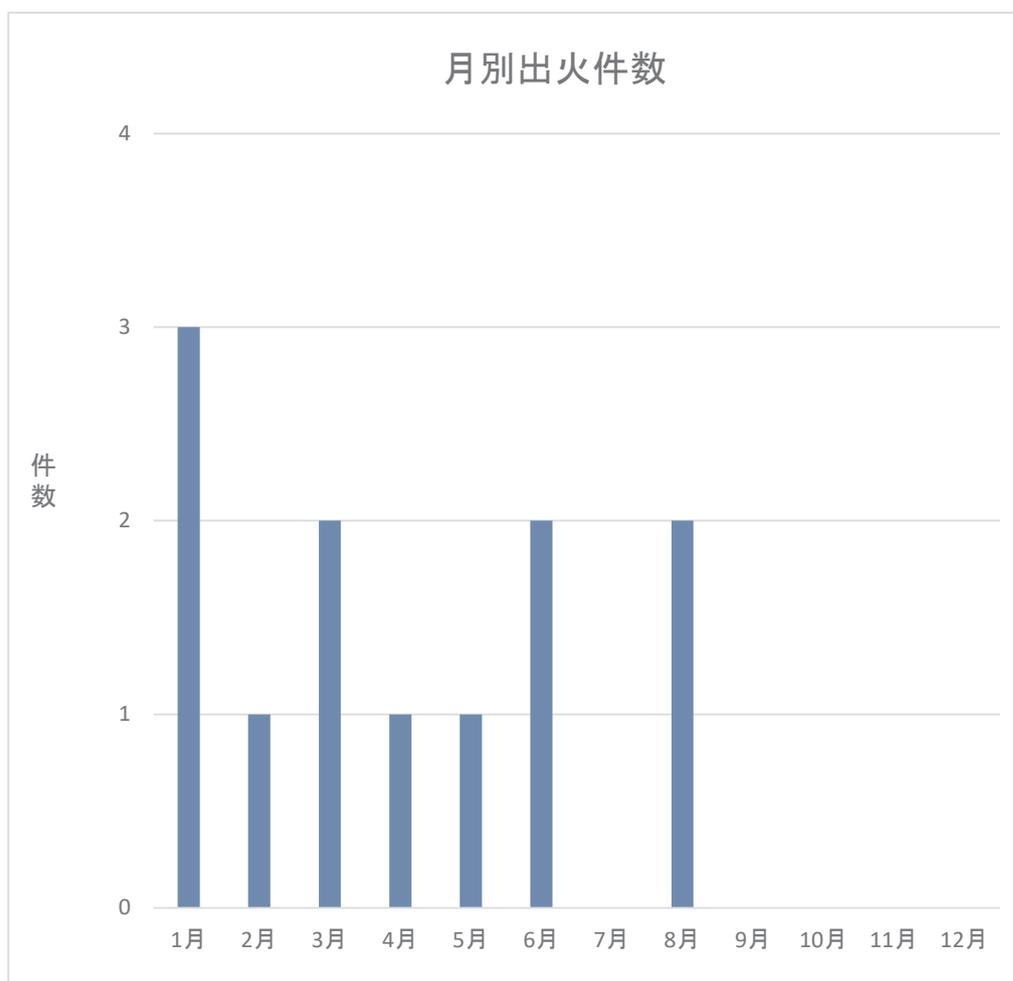
38 火災詳細一覧

号数	種 別	出 火 時 刻	地 区	火 災 概 要	出 火 原 因
1	建 物	1 月 21 日 23 時 8 分	中 津	カーペット焼損、負傷者1名	マッチ
2	その他	1 月 27 日 14 時 59 分	中 津	河川敷の枯草等227㎡焼失	焚火
3	その他	1 月 30 日 13 時 5 分	角 田	河川敷の枯草等559㎡焼失	焚火
4	その他	2 月 14 日 11 時 4 分	中 津	河川敷の枯草1425㎡焼失	不明
5	建 物	3 月 12 日 7 時 20 分	中 津	電気配線により床下が焼損	電気配線
6	車 両	3 月 17 日 12 時 32 分	三 増	貨物自動車1台焼損	不明
7	建 物	4 月 4 日 23 時 30 分	半 原	住宅1棟全焼	不明
8	その他	5 月 1 日 時刻不明	半 原	自動販売機2台焼損	不明
9	建 物	6 月 6 日 13 時 52 分	三 増	鶏舎3棟全焼、1棟部分焼	溶接機火花
10	建 物	6 月 27 日 2 時 45 分	中 津	住宅1棟全焼	たばこ
11	車 両	8 月 23 日 15 時 53 分	半 原	普通乗用車1台焼損	エンジンからの発火
12	建 物	8 月 25 日 13 時 8 分	中 津	共同住宅1室の玄関が焼損	放火の疑い



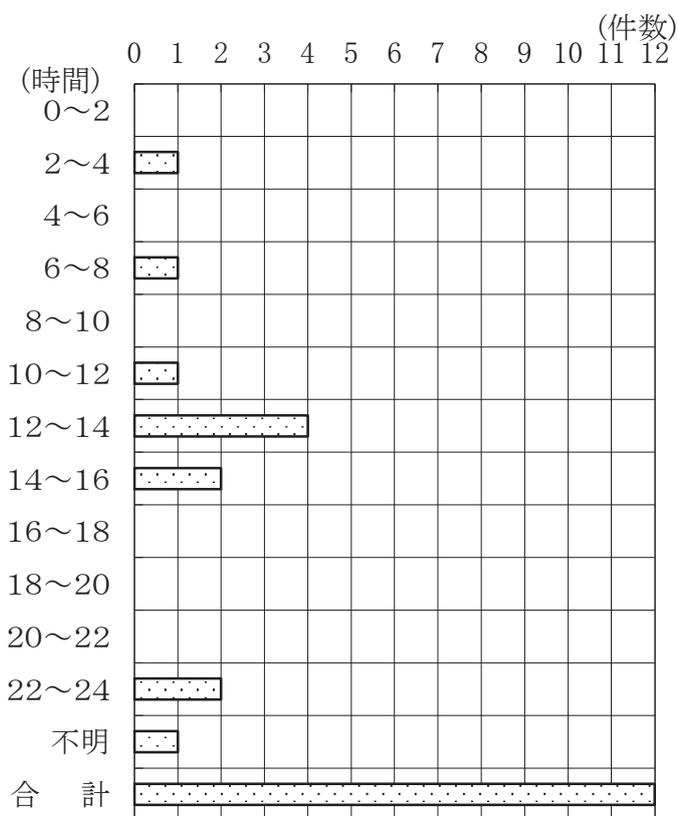
3 9 四季別出火件数

四半期別	区 分		割 合 (%)	損 害 額 (千円)	割 合 (%)
	出火件数	()内は建物火災			
春季 (3・4・5月)	4	(2)	33.3	16,416	22.0
夏季 (6・7・8月)	4	(3)	33.3	58,340	78.0
秋季 (9・10・11月)	0	(0)	0.0	0	0.0
冬季 (12・1・2月)	4	(1)	33.3	5	0.0
合 計	12	(6)	100.0	74,761	100.0



4 0 時間別火災発生件数

時間別	件数	建物火災
0～2	0	0
2～4	1	1
4～6	0	0
6～8	1	1
8～10	0	0
10～12	1	0
12～14	4	2
14～16	2	0
16～18	0	0
18～20	0	0
20～22	0	0
22～24	2	2
不 明	1	0
合 計	12	6



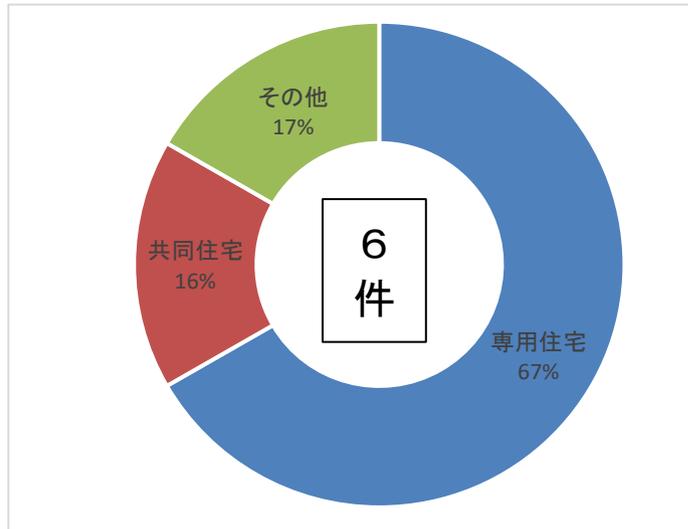
4 1 火災の覚知方法別

覚知方法別	区 分	令 和 6 年 中		令 和 5 年 中	
		件数	割 合 (%)	件数	割 合 (%)
火災報知専用電話(加入電話)		2	16.6	0	0
火災報知専用電話(携帯電話)		8	66.8	5	100
事 後 聞 知		2	16.6	0	0
加 入 電 話		0	0	0	0
駆 け 付 け		0	0	0	0
そ の 他		0	0	0	0
合 計		12	100	5	100

4 2 建物火災用途別状況

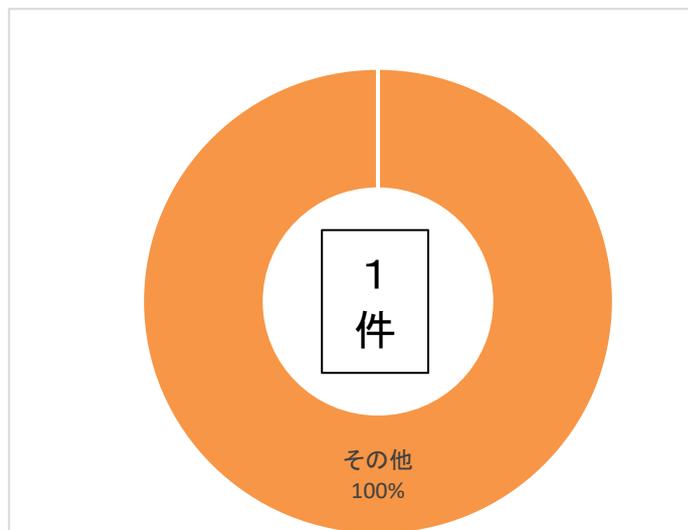
(令和6年中)

用途	件数
専用住宅	4
共同住宅	1
作業場	0
工場	0
物置	0
その他	1
合計	6

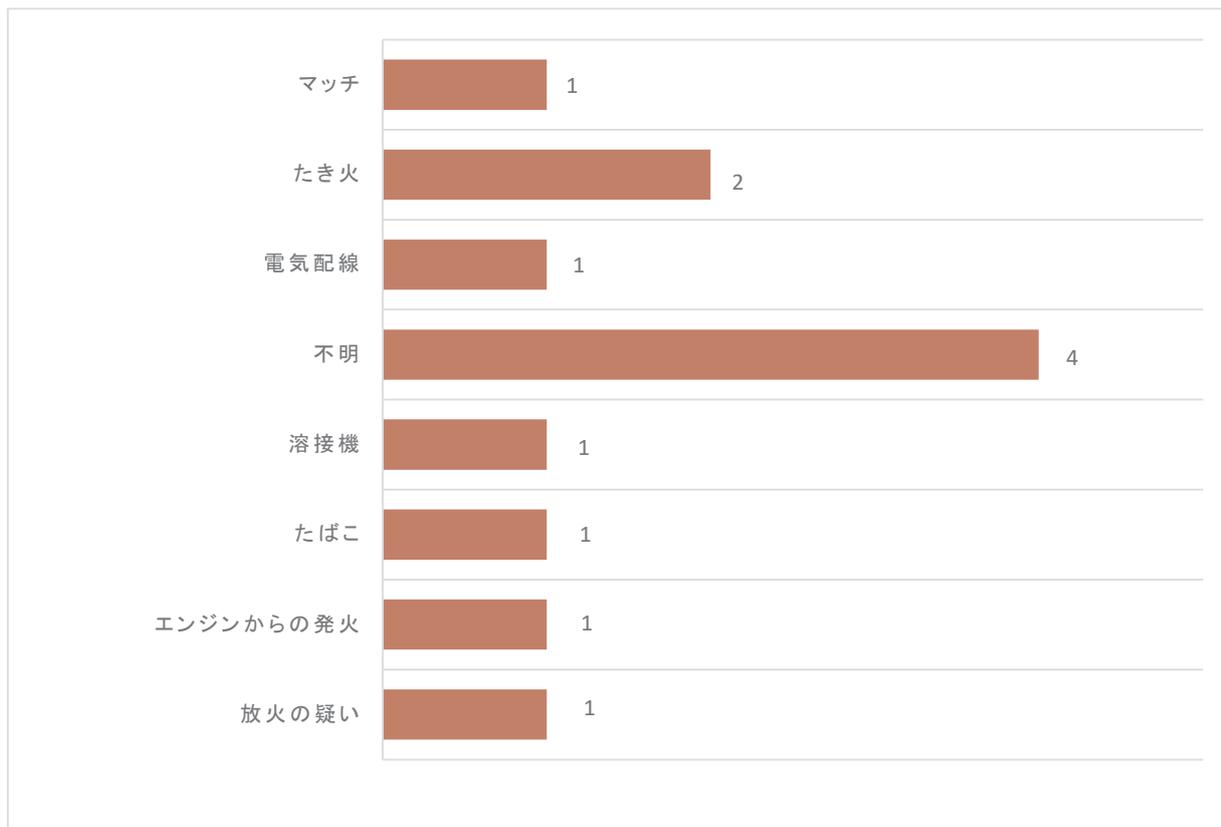


(令和5年中)

用途	件数
専用住宅	0
共同住宅	0
作業場	0
工場	0
物置	0
その他	1
合計	1



4 3 原因別出火件数



※ 放火対策について

全国的には放火・放火の疑いによる火災件数が最も多く、本町においては令和6年中の放火・放火の疑いによる火災件数は1件でしたが、放火予防対策として、放火されない環境づくりのPRに努めています。

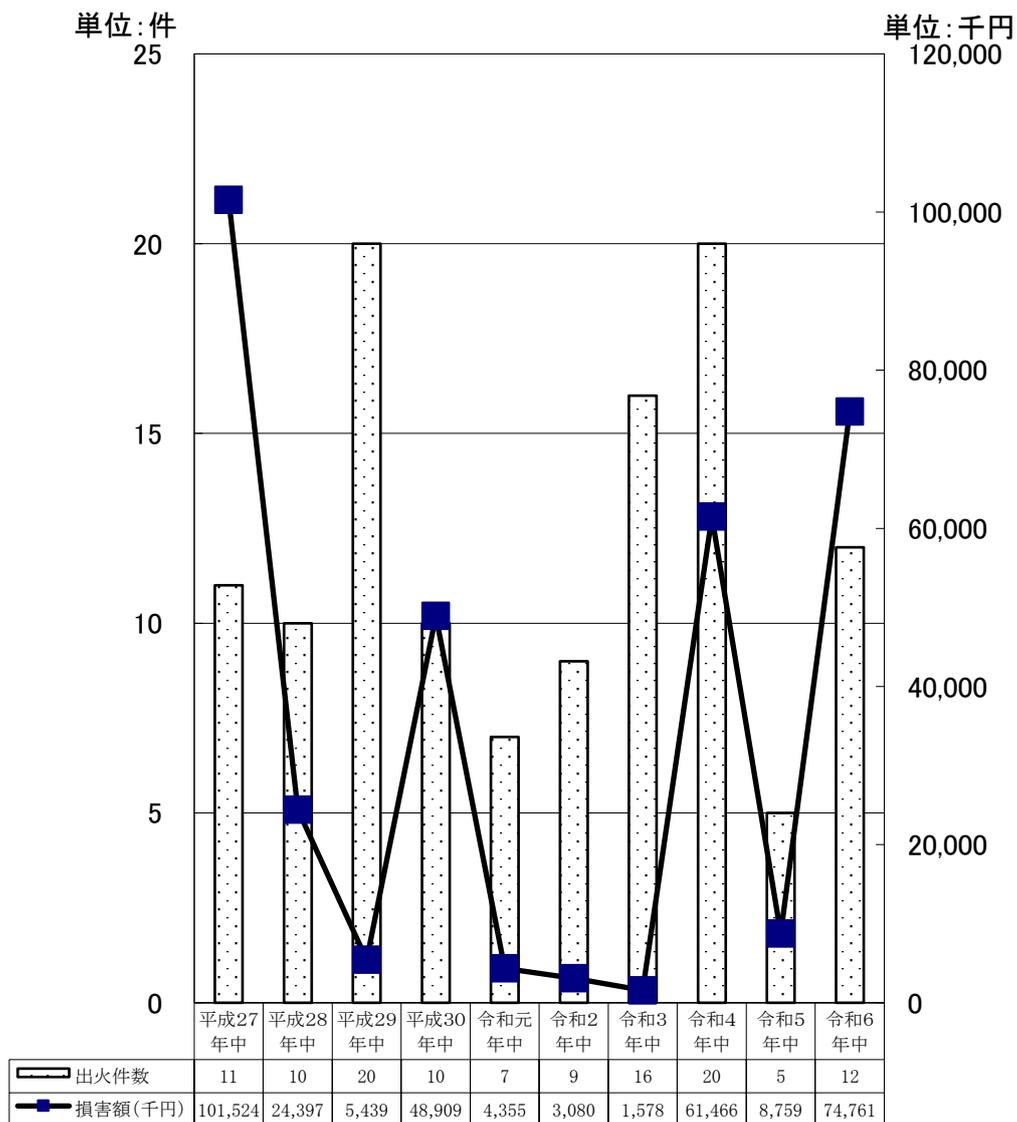
4 4 初期消火状況

	消火器	水道水	水バケツ	消火栓	もみ消し	その他	合計
実施回数	0	4	1	0	0	1	6
構成比 (%)	0.00	66.6	16.7	0.00	0.00	16.7	100

火災の初期消火状況は、12件中6件の火災で実施されています。

4 5 過去10年間の出火件数と損害額

年別	区分	出火 件数	損害額 (千円)	1件あたりの 損害額(千円)
平成27年中		11	101,524	9,229
平成28年中		10	24,397	2,439
平成29年中		20	5,439	271
平成30年中		10	48,909	4,890
令和元年中		7	4,355	622
令和2年中		9	3,080	342
令和3年中		16	1,578	98
令和4年中		20	61,466	3,072
令和5年中		5	8,759	1,751
令和6年中		12	74,761	6,230



4 6 地区別火災発生状況

(令和6年中)

区分 地区別	火災種別										り 災 人 員	損 害 額 (千 円)
	合 計	建 物	火 災					林 野 火 災	車 両 火 災	そ の 他		
			焼損棟数									
			計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や					
合 計	12	6	10	5	0	2	3	0	2	4	10	74,761
半 原	3	1		1					1	1	2	16,290
田 代												
三 増	2	1		3		1			1		1	5,038
角 田	1									1	0	0
中 津	6	4		1		1	3			2	7	53,433
八菅山・棚澤												
春 日 台												
工 業 団 地												

(令和5年中)

区分 地区別	火災種別										り 災 人 員	損 害 額 (千 円)
	合 計	建 物	火 災					林 野 火 災	車 両 火 災	そ の 他		
			焼損棟数									
			計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や					
合 計	5	1	1	0	1	0	0	0	0	4	0	8,759
半 原	1	1	1		1							8,759
田 代	0											
三 増	1									1		
角 田	1									1		
中 津	2									2		
八菅山・棚澤	0											
春 日 台	0											
工 業 団 地	0											

4 7 救助出動概要

救助出動件数

区 分	令 和 6 年 中	令 和 5 年 中
出 動 件 数	4 5	5 0
活 動 件 数	2 9	3 8
救 出 人 員	2 5	3 0
管 外 出 動 件 数	2	0

管外救助件数

区 分	令 和 6 年 中	令 和 5 年 中
出 動 件 数	2	0
活 動 件 数	2	0
救 出 人 員	1	0

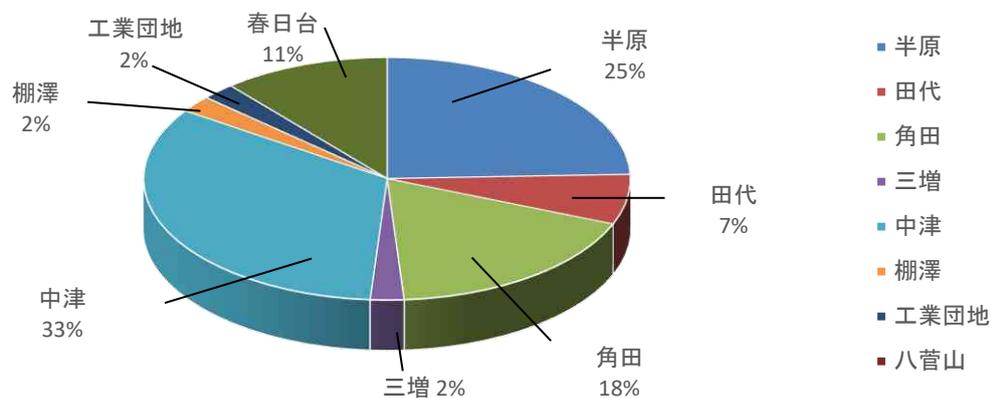
事故種別

区 分	合計	交通	火災	建物	水難	機械	ガス	破裂	その他
出動件数	4 5	8	1	1 3	1	0	0	0	2 2
活動件数	2 9	3	1	1 2	1	0	0	0	1 2
救出人員	2 5	6	1	7	1	0	0	0	1 0

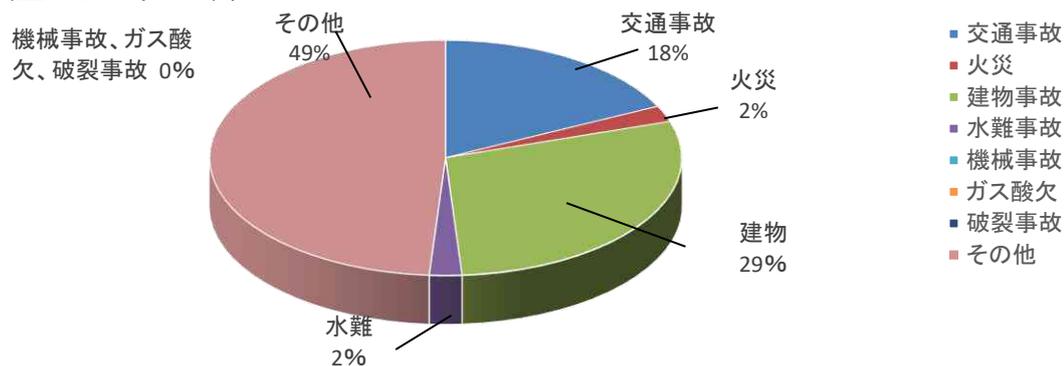
4 8 地区別・種別出動状況

区 分	合 計	交通事故	火 災	建物事故	水難事故	機械事故	ガス酸欠	破裂事故	そ の 他
合 計	45	8	1	13	1	0	0	0	22
半 原	11	1	1	2	1	-	-	-	6
田 代	3	2	-	-	-	-	-	-	1
角 田	8	4	-	2	-	-	-	-	2
三 増	1	-	-	1	-	-	-	-	-
中 津	15	-	-	6	-	-	-	-	9
棚 澤	1	1	-	-	-	-	-	-	-
工業団地	1	-	-	-	-	-	-	-	1
八 菅 山	0	-	-	-	-	-	-	-	-
春 日 台	5	-	-	2	-	-	-	-	3

地区別割合



事故種別割合



4 9 警戒出動概要

警戒出動とは、交通事故車両等から燃料やオイル等が流出した「危険物漏洩」やプロパンガス、都市ガス等の「ガス漏洩」により火災や爆発事故に発展する可能性があるため消防隊が出動し、災害を未然に防ぐ活動です。

種別出動件数

種別 年	合計	自火報 発報	危険物 漏洩	怪煙 確認	火気 放置	ガス 漏洩	火気の 消し忘れ	たき火 の放置	その他
令和6年中	37	6	12	9	1	0	0	0	9
令和5年中	23	1	14	7	0	0	0	0	1

地区別出動件数

地区 年	合計	半原	田代	角田	三増	中津	春日台	八菅山 ・棚澤	町外
令和6年中	37	5	2	9	1	18	0	1	1
令和5年中	23	5	2	2	3	10	0	1	0

活動内容

種 別	件数	活 動 内 容
自火報発報	6	現場調査
危険物漏洩	12	現場調査・油処理剤散布
怪煙確認	9	現場調査・口頭指導・消火活動
火気放置	0	
ガス漏洩	1	環境測定、バルブ閉鎖
火気の消し忘れ	0	
たき火の放置	1	
その他	8	現場調査・口頭指導・消火活動

50 風水害出動概要

大雨による雨量の急激な増加や、川の水位上昇に伴う河川の氾濫、山や急傾斜地で崖崩れなどの土砂災害が発生し、台風、ゲリラ豪雨などが発生したときに各種被害に伴う出動をします。令和6年中の出動は5件ありました。

種別出動件数

年 \ 種別	合計	床上浸水	床下浸水	冠水	崖崩れ	倒木	その他
令和6年中	5	—	—	—	—	2	3
令和5年中	0	—	—	—	—	—	—

地区別出動件数

地区 \ 種別	合計	床上浸水	床下浸水	冠水	崖崩れ	倒木	その他
合計	5	0	0	0	0	2	3
半原	1	—	—	—	—	—	1
田代	1	—	—	—	—	1	—
角田	2	—	—	—	—	—	2
三増	1	—	—	—	—	1	—
中津	0	—	—	—	—	—	—
春日台	0	—	—	—	—	—	—
棚澤	0	—	—	—	—	—	—

※ 凡例

床上浸水 …… 住家のうち居住の用に供する部分の床を超える浸水または地盤面より45cmを超え浸水したもの。

床下浸水 …… 床上浸水に至らない程度に浸水したもの。

冠水 …… 田畑や道路など普段は水のない土地が水に浸かったもの。

崖崩れ …… 降雨時や地震などの影響で地盤がゆるみ斜面が急激に崩れ落ちた現象。

倒木 …… 立木が倒れ住家や道路などに影響を及ぼしたもの。

その他 …… 上記以外の自然現象による内容で通報を受け出動したもの。

5 1 過去5年間の災害件数

過去5年間の災害件数をみると、高齢化社会の進展により、救急、救急特命及び安否確認を伴う救助出動は多い傾向にあります。

区分	令和6年中	前年との比較	令和5年中	令和4年中	令和3年中	令和2年中
火災	12	7	5	20	16	9
救急	2,580	10	2,570	2,437	2,013	2,122
救急特命	280	△ 76	356	283	260	271
救助	45	△ 5	50	40	34	44
調査	13	5	8	7	8	7
警戒	37	14	23	30	34	38
へりポ ート確 認	20	△ 1	21	17	18	22
風水害	2	2	0	0	0	2
管外火災	0	△ 4	4	3	4	4
管外救助	5	3	0	2	0	2
管外救急	3	1	2	4	0	2

5 2 通信指令業務の概要

通信指令室は、火災・救急をはじめ各種災害の通報受付や本署・分署への指令、消防隊・救急隊等への支援情報の伝達、各種関係機関等への連絡などを受け持っています。

平成29年4月1日に「高機能消防通信指令システム」を更新し新たに統合型位置情報通知装置を導入したことにより、一般電話及びIP電話さらに携帯電話からの119番通報の発信地データを瞬時に検索表示することが可能となりました。

また、障がい者が円滑に通報できるNET119や日本語によるコミュニケーションが困難な通報者に対しては、多言語通訳センターを介して緊急通報が受信できるシステムを導入し、多様化する119番緊急通報等に万全を期しています。

5 3 システムを構成する主な機器と設備

【指令台】

自動出動指令装置及び地図検索装置を搭載し、119番通報の受付、災害地点の決定、署々に対する出動指令など、災害の覚知から現場活動支援までを行う高機能総合指令台です。

【自動出動指令装置】

災害地点を決定するための各種検索機と、災害種別・車両状況等により最適な出動隊を自動編成する指令システムの中核装置です。

【地図検索装置】

指令台及び自動出動指令装置と連動し、災害地点の地図や支援情報の検索及び表示を行います。

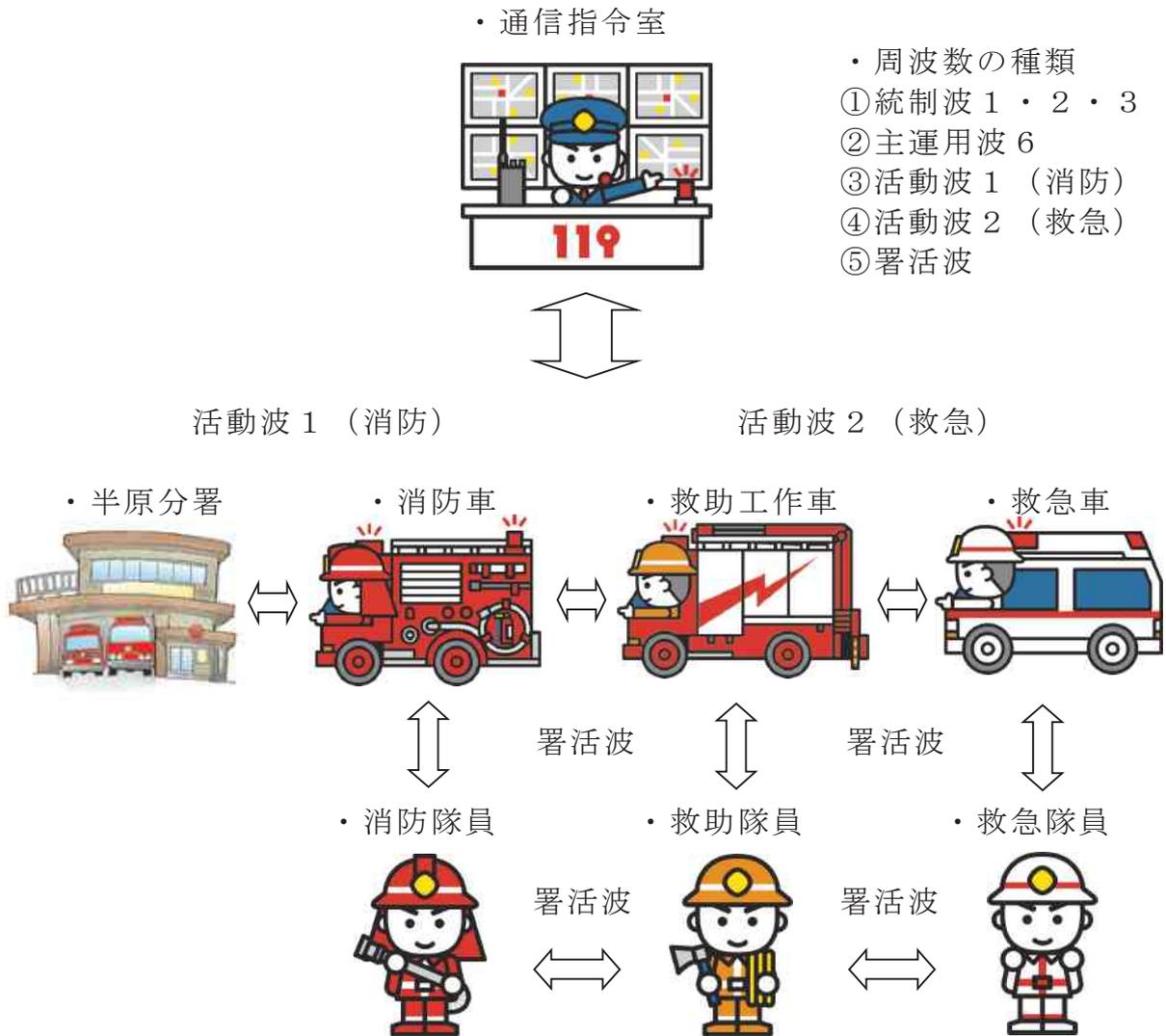
【統合型位置情報通知装置】

指令台と連動し、一般電話、IP電話及び携帯電話から119番通報に係る位置情報を指令台に通知及び取得するシステムです。

5 4 消防無線系統図

【消防無線のデジタル化】

データ伝送による確実かつ効率的な消防救急活動の支援、無線チャンネルの増加、消防救急活動の高度化及び通信業務の秘匿性向上による搬送患者や、災害現場における個人情報保護等の観点及び電波の有効利用を目的として、従来のアナログ方式による150MHz帯周波数の無線機を総務省告示に従って、平成27年6月からは260MHz帯のデジタル方式に移行して運用しています。



区 分	車載型	携帯型	署活系	合 計
本 部	5	1	2	8
本 署	5	6	16	27
分 署	4	3	7	14
合 計	14	10	25	49

5 5 消防無線機一覧表（デジタル無線局）

No.	無線局名	種 別	出 力	配置車両等
1	しょうぼうあいかわ	基 地 局	5 W	通信指令室
2	はんばら 1	陸上移動局	5 W	分署事務室
3	はんばらぼんぷ 1	陸上移動局	5 W	分署消防ポンプ車
4	あいかわかがく 1	陸上移動局	5 W	化学消防ポンプ車
5	あいかわきゅうじょ 1	陸上移動局	5 W	救助工作車
6	あいかわしき 1	陸上移動局	5 W	消防指揮車
7	あいかわほんぶ 1	陸上移動局	5 W	消防指揮車
8	あいかわぼんぷ 1	陸上移動局	5 W	本署消防ポンプ車
9	あいかわしれい 1	陸上移動局	5 W	消防指令車
10	あいかわこうほう 1	陸上移動局	5 W	消防広報車
11	あいかわせきさい 1	陸上移動局	5 W	予備消防車
12	あいかわはんそう 1	陸上移動局	5 W	資機材搬送車
13	あいかわ 1	陸上移動局	2 W	消防指揮車
14	あいかわ 2	陸上移動局	2 W	化学消防ポンプ車
15	あいかわ 3	陸上移動局	2 W	救助工作車
16	あいかわ 4	陸上移動局	2 W	本署消防ポンプ車
17	あいかわ 5	陸上移動局	2 W	分署消防ポンプ車
18	あいかわ 6	陸上移動局	2 W	予備消防車
19	あいかわ 7	陸上移動局	2 W	本署高規格救急車
20	あいかわ 8	陸上移動局	2 W	分署高規格救急車
21	あいかわ 9	陸上移動局	2 W	本署高規格救急車
22	あいかわ 1 0	陸上移動局	2 W	通信指令室
23	きゅうきゅうあいかわ	基 地 局	5 W	通信指令室
24	きゅうきゅうあいかわ 1	陸上移動局	5 W	本署高規格救急車
25	きゅうきゅうあいかわ 2	陸上移動局	5 W	本署高規格救急車
26	きゅうきゅうはんばら 1	陸上移動局	5 W	分署高規格救急車

56 消防無線機一覧表（署活系無線局）

No.	無線局名	種別	出力	配置車両等
1	あいかわ101	陸上移動局	1W	化学消防ポンプ車
2	あいかわ102	陸上移動局	1W	化学消防ポンプ車
3	あいかわ103	陸上移動局	1W	化学消防ポンプ車
4	あいかわ104	陸上移動局	1W	化学消防ポンプ車
5	あいかわ105	陸上移動局	1W	化学消防ポンプ車
6	あいかわ201	陸上移動局	1W	救助工作車
7	あいかわ202	陸上移動局	1W	救助工作車
8	あいかわ203	陸上移動局	1W	救助工作車
9	あいかわ301	陸上移動局	1W	本署消防ポンプ車
10	あいかわ302	陸上移動局	1W	本署消防ポンプ車
11	あいかわ303	陸上移動局	1W	本署消防ポンプ車
12	あいかわ401	陸上移動局	1W	着装室
13	あいかわ402	陸上移動局	1W	着装室
14	あいかわ501	陸上移動局	1W	分署消防ポンプ車
15	あいかわ502	陸上移動局	1W	分署消防ポンプ車
16	あいかわ503	陸上移動局	1W	分署消防ポンプ車
17	あいかわ504	陸上移動局	1W	分署消防ポンプ車
18	あいかわ601	陸上移動局	1W	消防指揮車
19	あいかわ602	陸上移動局	1W	消防指揮車
20	あいかわ701	陸上移動局	1W	本署高規格救急車
21	あいかわ702	陸上移動局	1W	本署高規格救急車
22	あいかわ703	陸上移動局	1W	本署高規格救急車
23	あいかわ801	陸上移動局	1W	分署高規格救急車
24	あいかわ802	陸上移動局	1W	分署高規格救急車
25	あいかわ803	陸上移動局	1W	分署高規格救急車

5 7 月別災害受付状況（携帯電話通報を含む）

区分/月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
火災	3	1	2	1	1	2	0	2	0	0	0	0	12
救急	211	189	223	194	219	181	262	245	201	204	194	257	2,580
救助	5	2	4	2	4	5	5	2	3	3	3	7	45
小計	219	192	229	197	224	188	267	249	204	207	197	264	2,637

5 8 月別災害通報覚知件数状況

区分/月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	
覚知件数	225	200	240	201	232	202	269	262	215	209	203	272	2,730	
(多言語音声通話 使用件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
通報種別 形態	固定電話	28	27	27	19	21	15	24	24	25	14	24	30	278
	携帯電話	128	112	123	114	130	127	171	160	116	110	117	154	1,562
	IP電話	47	41	61	41	49	35	41	47	43	49	44	45	543
	FAX119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	NET119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加入電話	21	16	27	23	28	23	29	27	30	36	16	33	309
	その他	1	4	2	4	4	2	4	4	1	0	2	10	38

5 9 月別病院問い合わせ

区分/月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
加入電話	122	67	75	74	91	105	122	121	89	80	81	139	1,166
119番	20	9	11	16	16	9	21	15	8	6	9	18	158
小計	142	76	86	90	107	114	143	136	97	86	90	157	1,324

6 0 月別気象状況

区分/月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
気温 (℃)	最高	17.1	22.4	28.2	26.7	27.8	32.4	38.5	35.7	34.8	30.6	23.9	18.0	
	最低	-2.2	-0.1	-0.5	5.3	9.8	15.1	21.6	22.7	18.0	10.3	3.6	-1.3	
	平均	6.3	7.3	8.7	16.0	18.9	22.1	28.0	28.1	25.7	19.8	13.1	7.2	
湿度 (%)	最低	16.1	24.9	10.5	17.5	21.9	41.9	40.5	39.1	47.5	44.4	16.1	13.3	
	平均	64.3	76.2	69.2	82.3	79.6	86.0	84.0	82.9	84.7	84.9	77.0	61.6	
風速 (m/s)	最高	9.5	11.0	14.2	14.7	12.8	10.3	11.3	10.1	10.6	10.2	8.8	9.5	
	平均	2.5	2.9	3.2	2.6	3.7	2.9	2.4	3.0	2.9	2.6	2.4	2.3	
雨量 (mm)	本署	一日最大	29.5	19.0	97.0	61.5	63.0	91.0	34.5	257.5	30.5	44.0	42.5	0.0
		月累計	38.5	97.0	250.0	143.5	199.5	295.0	97.0	634.5	103.5	108.0	101.5	0.0
	分署	一日最大	44.0	31.5	94.5	69.0	62.0	102.5	25.5	250.0	48.0	53.5	56.5	0.0
		月累計	58.5	118.5	287.0	172.0	221.5	339.5	111.0	658.0	129.5	249.0	124.5	0.0
最多風向		北西	北西	北西	南	南	南	南	南	南	北西	北	北西	

6.1 気象統計

(過去10年間)

区分/年別	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	
気温 (°C)	最高	36.2	36.7	34.8	37.1	35.2	36.9	37.7	36.3	37.2	38.5
	最低	-4.1	-3.0	-3.0	-5.6	-2.5	-3.7	-3.2	-4.1	-4.5	-2.2
	平均	15.4	15.5	14.9	16.0	15.7	15.8	15.7	15.6	16.7	16.8
湿度 (%)	最高	99.5	99.6	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.4	99.4
	最低	16.8	20.7	8.0	12.7	12.2	14.7	13.3	12.2	19.4	10.5
	平均	79.7	82.8	75.2	75.6	76.3	79.5	77.8	79.2	77.3	77.7
風速 (m/s)	瞬間最大	28.1	30.5	28.4	40.2	34.2	23.8	22.5	21.9	22.6	28.1
	平均	2.7	2.8	2.7	2.9	2.7	2.8	2.7	2.8	2.8	2.8
	最多風向	北西	南	南							
雨量 (mm)	時間最大	29.5	46.5	53.5	33.0	67.5	39.0	34.0	41.0	31.5	57.5
	日最大	183.0	132.5	151.5	83.5	343.0	302.0	171.0	94.5	155.5	257.5
	年積算	1759.5	1631.0	1777.0	1619.5	2003.5	1608.5	1839.0	1720.5	1407.5	2068.0

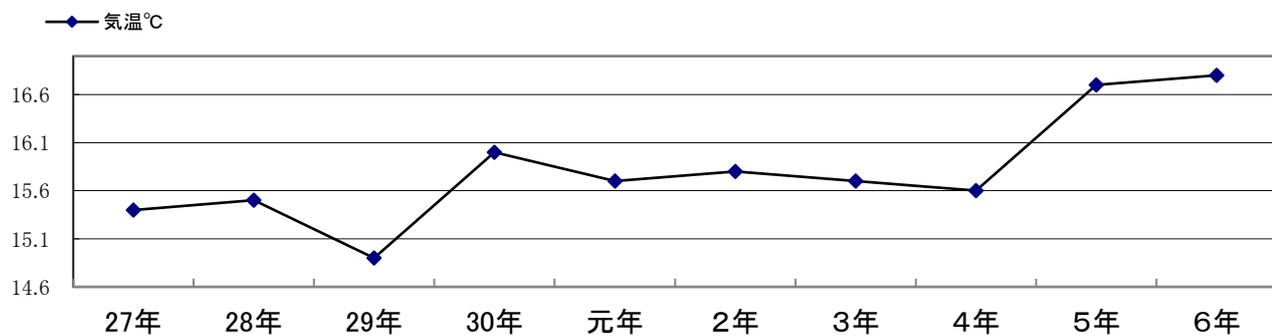
気象の観測地点

観測地点	愛川町消防本部	
観測期間	平成8年～16年	平成17年～
所在地	角田251-1	角田286-1
東経	139度19分31秒	139度19分24秒
北緯	35度31分32秒	35度31分48秒
標高	127m	

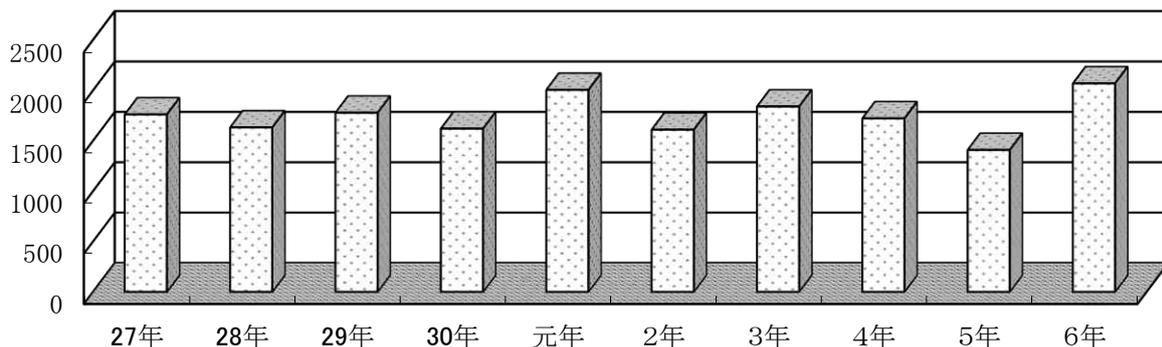
これまでの記録値等(役場所在地計測)

観測項目	記録値	記録日等
気温 (°C)	最高	38.6°C
	最低	-5.7°C
	年平均	15.8°C
雨量 (mm)	時間最大	67.5mm
	日最大	343.0mm
	月積算	634.5mm
	年積算	2167.5mm
風速 (m/s)	最高	41.2m/s
	年平均	2.8m/s
	最多風向	北西

平均気温推移



年間雨量推移



救急関係



(令和6年10月 厚木市・愛川町救急合同実践訓練)

救急車の適正利用について

令和6年の出場件数、搬送人員は過去最高となりました。出動件数の増加に伴い、救急隊の現場到着時間も遅れてしまう傾向で、入院が必要ない軽症者の増加という現状もあります。救急車は限られた医療資源です。限られた救急車を有効に活用し緊急性の高い傷病者にできるだけ早く救急車が到着できるようにするため救急車の適時、適切な利用にご協力をお願いします。



6 2 救急出場概要

令和6年中の出場件数は2,580件(前年比10件増)、搬送人員は2,397人(前年比40人増)となりました。これは最も多かった昨年を上回り、過去最高の出場件数、搬送人員となっております。

※(過去最高の出場件数、搬送人員更新は2年連続)

種 別	令和6年	令和5年
出 場 件 数	2,580 件	2,570 件
一万人当りの出場件数	655.0 件	650.7 件
搬 送 件 数	2,381 件	2,342 件
一万人当りの搬送件数	604.5 件	592.9 件
不 搬 送 件 数	199 件	228 件
搬 送 人 員	2,397 人	2,357 人
ドクターヘリコプター 搬送件数	20 件	21 件
	急病 16 件	急病 15 件
	一般負傷 1 件	水難 1 件
	交通事故 3 件	一般負傷 1 件
		自損行為 2 件
	労働災害 1 件	
		転院搬送 1 件
1 日 の 平 均 出 場 件 数	7.0 件	7.0 件
1 日 の 平 均 搬 送 件 数	6.5 件	6.4 件
1 日 の 平 均 搬 送 人 員	6.5 人	6.5 人
応 援 出 場 件 数	3 件	2 件
	相模原市 3件	相模原市 2件

6.3 事故種別出場件数

種別 年中	火災	自然 災害	水難 事故	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	転院 搬送	その他	合計
令和5年	4	0	3	143	42	11	346	11	35	1,827	124	24	2,570
令和6年	7	0	2	150	42	12	382	9	21	1,793	128	34	2,580
増減	3	0	△ 1	7	0	1	36	△ 2	△ 14	△ 34	4	10	10

6.4 交通事故の状況

※道路名は正式名称でないものも含まれます。

路 線 名	出場 件数	搬送 人員	傷病程度別			
			死亡	重症	中等症	軽症
国 道 412 号 線	8	7			3	4
相 模 原 愛 川 線	21	23		1	8	14
中 野 厚 木 線	3	3			2	1
相 模 原 大 磯 線	22	24			4	20
大 井 上 依 知 線	6	6	1		2	3
水 道 路	6	6				6
三 増 田 代 線	0	0				
工 業 団 地 箕 輪 線	7	7			2	5
工 業 団 地 内	21	18			7	11
一 本 松 棚 沢 線	4	6				6
桜 台 小 沢 線	0	0				
宮 ヶ 瀬 ・ 愛 川 線	2	2			1	1
町 道 幣 山 ・ 下 平 線	0	0				
厚 木 市 の 道 路	0	0				
相 模 原 市 の 道 路	1	1			1	0
清 川 村 の 道 路	0	0				
その他・道路以外の場所	49	48		2	13	33
合 計	150	151	1	3	43	104

6.5 月別出場件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	211	189	223	194	219	181	262	245	201	204	194	257	2,580

6.6 月別搬送人員

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
人数	187	173	203	185	208	165	249	232	187	194	181	233	2,397

67 時間別出場件数

種別	時間												計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
火災	0	0	0	1	0	0	3	1	0	0	1	1	7
自然災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水難事故	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
交通事故	8	2	3	10	25	18	15	13	24	17	8	7	150
労働災害	2	0	0	2	5	8	7	9	4	3	1	1	42
運動競技	0	0	0	1	1	1	2	3	1	3	0	0	12
一般負傷	17	8	11	23	44	59	54	45	32	40	26	23	382
加害	1	2	3	0	0	0	2	0	0	0	0	1	9
自損行為	0	2	3	1	4	1	3	1	1	1	1	3	21
急病	102	74	78	137	209	201	181	194	180	186	144	107	1,793
転院搬送	3	0	1	1	8	32	28	17	30	5	2	1	128
その他	3	5	3	3	1	1	4	2	1	4	6	1	34
合計	136	93	102	179	298	321	299	285	274	259	189	145	2,580

68 傷病程度・事故種別搬送人員

	火災	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	性別		合計
												男性	女性	
死亡	0	0	0	1	0	0	4	0	0	21	0	15	11	26
重症	1	0	0	3	3	0	15	1	1	85	29	94	44	138
中等症	0	0	0	43	16	2	112	1	10	882	82	658	490	1,148
軽症	0	0	2	104	23	10	231	5	1	692	17	570	515	1,085
合計	1	0	2	151	42	12	362	7	12	1,680	128	1,337	1,060	2,397

69 ドクターヘリコプター搬送概要

件数

事故種別	急病	一般負傷	交通事故	合計
件数	16	1	3	20

傷病程度別搬送人員

傷病程度	軽症	中等症	重症	死亡	合計
人員	0	7	11	2	20

70 過去10年間の出場件数の推移

年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
件数	1,990	2,068	2,093	2,331	2,307	2,122	2,013	2,437	2,570	2,580

7.1 傷病程度別年齢区分別搬送人員

傷病程度	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
死亡	0	0	0	2	24	26
重症	0	0	2	32	104	138
中等症	0	12	21	309	806	1,148
軽症	0	78	75	384	548	1,085
合計	0	90	98	727	1,482	2,397

7.2 救急隊員の行った応急処置件数

事故種別	区分	応急処置対象人員	合計	応急処置										特定行為					
				止血	固定	心肺蘇生	酸素吸入	気道確保	血圧測定	血中酸素飽和度測定	心電図	除細動	血糖測定	その他	気管挿管（ビデオ喉頭鏡含む）	心肺停止への輸液	アドレナリン投与	シヨックへの輸液	ブドウ糖液投与
合計			9,729	52	108	34	290	42	2,356	2,361	1,635	1	12	2,764	4	28	28	13	1
急病			6,878	11	4	27	237	34	1,649	1,652	1,312	1	12	1,876	3	23	23	13	1
交通		2,397	602	2	49	1	7	1	149	149	57	0	0	185	0	1	1	0	0
一般負傷			1,404	26	42	6	17	7	355	356	133	0	0	453	1	4	4	0	0
その他			845	13	13	0	29	0	203	204	133	0	0	250	0	0	0	0	0

※ 平成26年7月から登録を受けた救急救命士による血糖測定、ブドウ糖液投与、心肺停止前の輸液が開始されました。

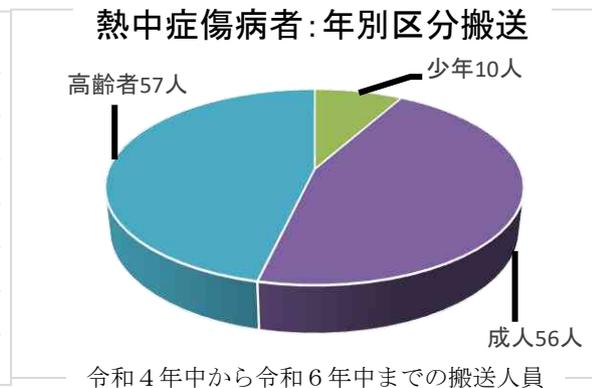
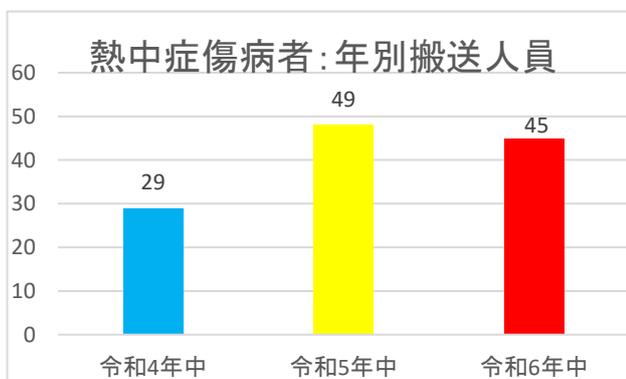
7.3 住民の方が行った応急手当件数

事故種別	気道確保	人工呼吸	胸骨圧迫	除細動	止血	保温・冷却	体位管理・移動	その他	合計
急病	0	0	19	0	12	17	17	1,278	1,343
交通事故	0	0	0	0	5	1	0	105	111
一般負傷	1	0	5	0	50	8	0	254	318
その他	1	0	1	0	22	5	3	58	90
合計	2	0	25	0	89	31	20	1,695	1,862

※ その他の内訳は、被覆や安静、観察継続など。

7 4 熱中症傷病者搬送人員

		令和6年中	令和5年中	令和4年中
年齢区分	新生児	0	0	0
	乳幼児	0	0	0
	少年	5	3	2
	成人	19	24	13
	高齢者	21	21	14
	合計	45	48	29
性別	男性	36	37	19
	女性	9	11	10
	合計	45	48	29
程度	軽症	32	29	21
	中等症	13	18	6
	重症	0	1	2
	死亡	0	0	0
	合計	45	48	29
発生場所	住居	9	22	10
	仕事場	12	5	7
	教育機関	0	1	1
	公衆出入場所	11	13	6
	道路	8	3	4
	その他	5	4	1
	合計	45	48	29



75 救急業務の高度化とメディカルコントロール体制

消防機関と医療機関の緊密な連携により、救急現場から医療機関へ搬送されるまでの間において、救急救命士を含む救急隊員が行う応急処置等の質を向上させるため、愛川町消防本部は、湘南・県央・県西地区の13消防本部を統轄する湘南地区メディカルコントロール協議会に加盟し、活動しています。

主な活動内容は救急現場、搬送途上において医師による救急救命士への指示及び救急隊員への指導・助言体制、救急活動の医学的観点からの事後検証体制の充実、救急救命士等の病院実習及び各種研修会の再教育体制などを行っています。

救急救命士の教育（病院実習）状況
令和6年度

区分	人数
救急救命士の再教育	14
気管挿管病院実習（再教育含む）	3
就業前病院実習（薬剤含む）	1
ビデオ喉頭鏡実習	1

事後検証実施状況

一次検証	件数	二次検証	件数
	2,580		36

指導・助言実施件数

件数
133

※一次検証：指導的立場の救急隊員が、救急活動における部隊活動や救急処置について検証を行い、より良い救急活動を実施するために行います。

※二次検証：一次検証の中から心肺停止症例や重症外傷症例等について、医師が医学的観点から救急活動の検証を行います。

76 応急手当普及啓発活動

心肺停止の傷病者を救命するためには、目撃者による心肺蘇生法が必要です。ひとりでも多くの人に心肺蘇生法を広めるため、救命講習を開催しています。胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸、AED（自動体外式除細動器）の操作方法を中心に学習します。現在の修了者は2万4千人を超えており、本町の人口比の約55%が救命講習を修了しています。

区分	令和6年中					総受講者数					
	普通Ⅰ	普通Ⅱ	普通Ⅲ	上級	一般	普通	普通Ⅰ	普通Ⅱ	普通Ⅲ	上級	一般
新規	348	80	13	10	85	8,082	10,143	2,607	307	420	2,325
再講習	29	34	5	3		1,288	1,272	530	123	40	

- 普通救命講習Ⅰ【3時間】心肺蘇生法、AED操作方法
- 普通救命講習Ⅱ【4時間】心肺蘇生法、AED操作方法（AED設置施設職員対象）
- 普通救命講習Ⅲ【3時間】心肺蘇生法（新生児・乳児・小児）、AED操作方法
- 上級救命講習【8時間】心肺蘇生法、観察方法、搬送方法等
- 一般講習【3時間未満】普通救命講習以外の応急手当に関する講習会

77 年別救命講習修了者数

	講習回数		新規修了者数					合計
	上級	普通	上級	普通	普通Ⅰ	普通Ⅱ	普通Ⅲ	
平成 5年		1		8				8
平成 6年	2	4	37	134				171
平成 7年	1	7	29	148				177
平成 8年	1	6	7	149				156
平成 9年		16		328				328
平成10年		19		432				432
平成11年		32		814				814
平成12年		39		743				743
平成13年		52		1,469				1,469
平成14年		37		1,139				1,139
平成15年	1	53	8	1,070				1,078
平成16年	2	56	18	1,121				1,139
平成17年	1	40	4	527	469	31		1,031
平成18年		54			953	239		1,192
平成19年	1	51	8		1,232	232		1,472
平成20年		31			685	72		757
平成21年		36			677	102		779
平成22年	1	36	20		634	104		758
平成23年	3	44	31		630	137		798
平成24年	6	36	13		489	102		604
平成25年		51			553	287	125	965
平成26年	2	56	17		791	284	38	1,130
平成27年	6	46	56		582	222	2	862
平成28年	3	30	30		437	98	14	579
平成29年	4	45	34		593	121	18	766
平成30年	5	43	67		459	157	18	701
令和元年	2	42	19		445	176	34	674
令和 2年								0
令和 3年		2			8			8
令和 4年	1	13	7		55	30	14	106
令和 5年	1	31	5		103	133	31	272
令和 6年	1	30	10		348	80	13	451
合 計	44	1,039	420	8,082	10,143	2,607	307	21,559

7 8 町内公共施設自動体外式除細動器（AED）設置状況

心肺停止傷病者の救命には、心肺蘇生法だけでなくAEDを使用することが重要です。愛川町では、救命率向上を目的として町の公共施設32箇所、飲食店2箇所にAEDを設置し、内10箇所は、屋外設置としております。また、AED設置事業所登録要綱に基づき事業所などが所有、管理しているAEDを、緊急時に使用することができる施設などについて、インターネット上で確認することができる「愛川町AEDマップ」を公開しています。このAEDマップはインターネットからアクセスすることで、マップ上で簡単に閲覧することができます。

※ (No.) 屋外設置箇所

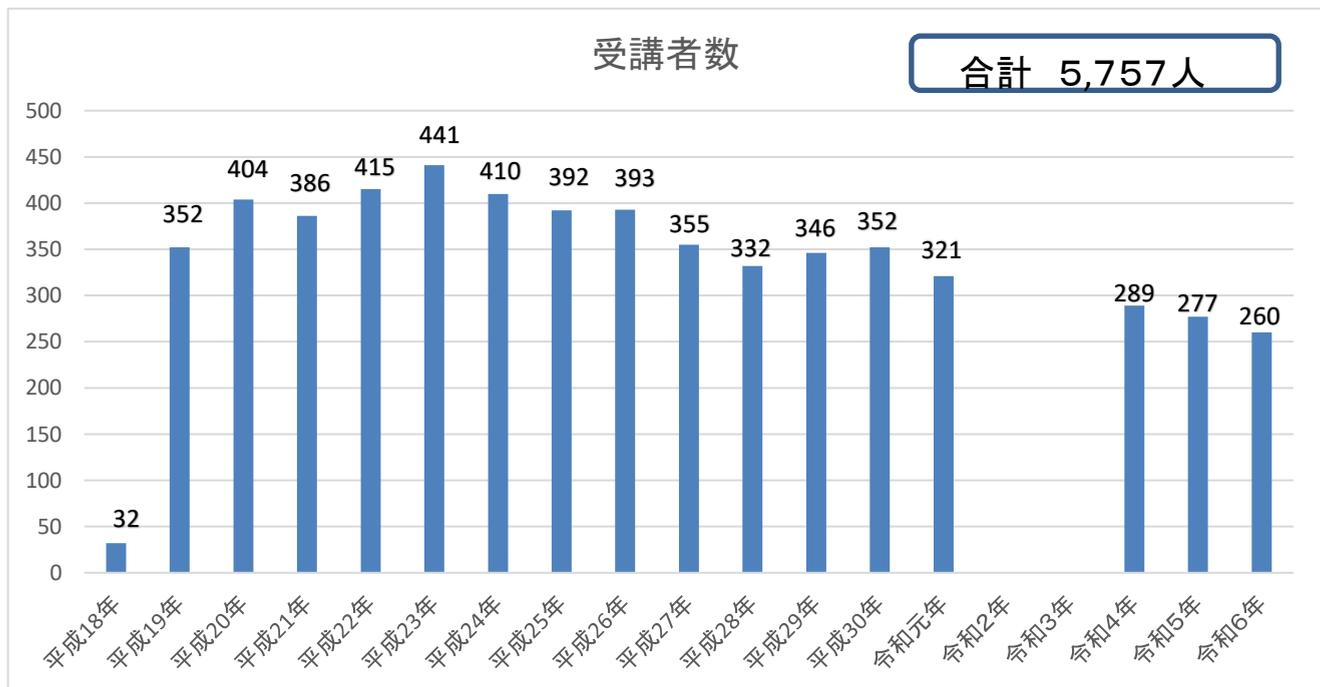
No.	施設名称	設置年月	No.	施設名称	設置年月
(1)	第1号公園体育館	平成17年6月	18	春日台保育園	平成19年5月
(2)	中津公民館	平成17年6月	19	中津保育園	平成19年5月
(3)	三増公園	平成17年6月	20	中津南保育園	平成19年5月
(4)	田代運動公園	平成17年6月	21	半原老人福祉センター	平成19年5月
(5)	半原公民館	平成17年6月	22	愛川聖苑	平成19年5月
6	中津小学校	平成18年6月	23	愛川町役場本庁舎1階	平成21年5月
7	中津第二小学校	平成18年6月	24	愛川郷土資料館	平成21年5月
8	菅原小学校	平成18年6月	25	愛川町消防本部 (貸出し用2台)	平成24年5月
9	高峰小学校	平成18年6月	26	愛川町健康プラザ	平成26年5月
10	田代小学校	平成18年6月	(27)	農村環境改善センター	平成26年5月
11	半原小学校	平成18年6月	28	愛川町文化会館	平成29年10月
12	愛川東中学校	平成18年6月	29	美化プラント	平成30年4月
13	愛川中原中学校	平成18年6月	30	消防署半原分署 (貸出し用)	平成31年4月
14	愛川中学校	平成18年6月	(31)	六倉児童館	令和6年6月
15	半原保育園	平成19年5月	(32)	二井坂児童館	令和6年6月
16	田代保育園	平成19年5月	(33)	RESTAURANT TIKI	令和6年6月
17	高峰保育園	平成19年5月	(34)	La Miel de Aikawa	令和6年6月

79 小学生BLS授業

小学生BLS授業は平成18年に試行的授業を行い、平成19年から本格的に町立小学校の6年生を対象に開催しています。BLSとは、Basic-Life-Supportの略語で「その場に居合わせた人による一次救命処置」と言います。児童はこの授業を通じて命の大切さを学びます。授業は視聴覚教材を取り入れ、理解度の向上を図っています。また、校内で心肺停止傷病者が発生した想定でロールプレイを実施し、学習効果の確認を行っています。



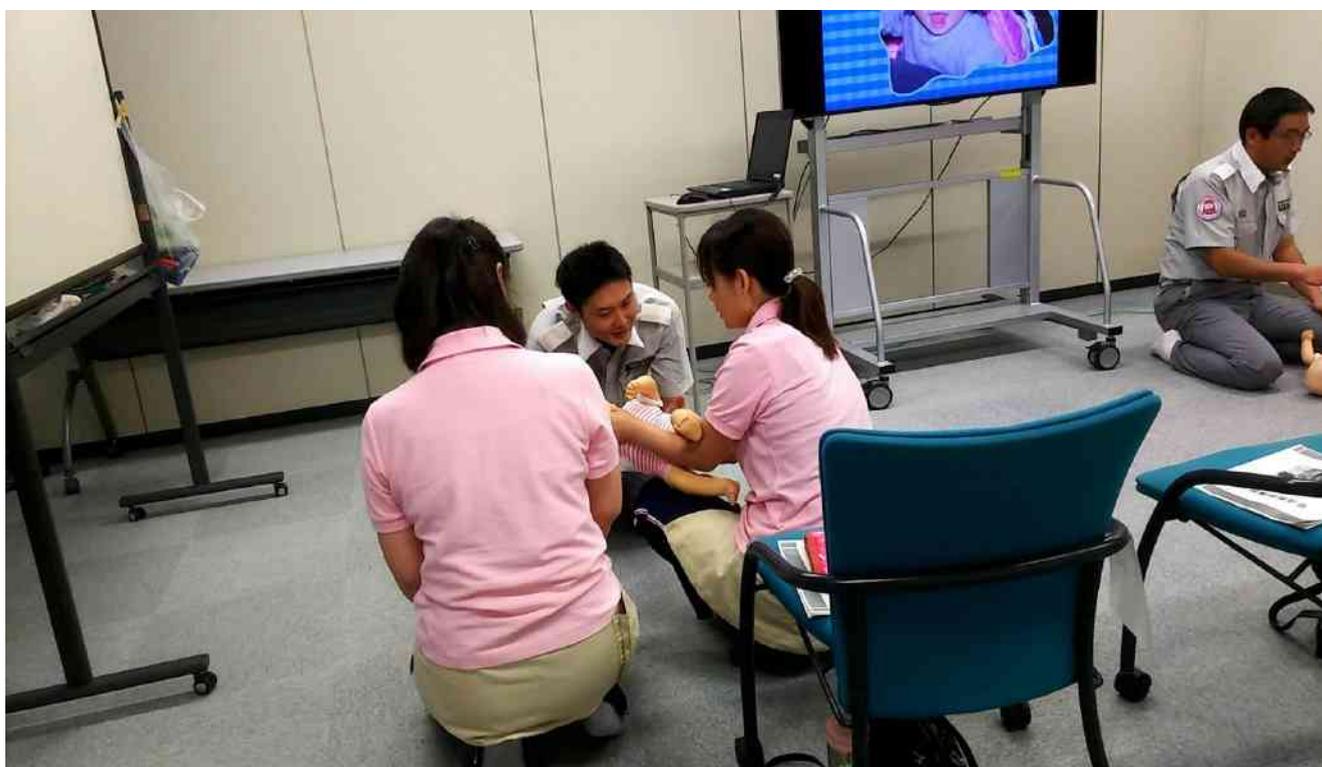
小学生BLS授業の様子



※ 令和2年中及び令和3年中は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け小学生BLS授業の開催はしていません。

80 普通救命講習Ⅲ

普通救命講習Ⅲは、保育士等を対象に平成25年から実施しています。新生児・乳児・小児の心肺蘇生法、AED操作方法などを学習することで、子供の成長段階に合わせた救命方法を習得することを目的としています。



普通救命講習Ⅲの様子

普通救命講習Ⅲ 受講者数（再講習者含む）

年	平成25年中	平成26年中	平成27年中	平成28年中	平成29年中	平成30年中	令和元年中	令和2年中 令和3年中	令和4年中	令和5年中	令和6年中	合計
受講者数	125	38	7	22	74	38	45	0	17	46	18	430

※ 令和2、3年中は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け普通救命講習Ⅲの開催はしていません。

消 防 団 関 係



第 5 5 回 神 奈 川 県 消 防 操 法 大 会



令 和 6 年 7 月 7 日 発 足

8 1 消防団の概要

消防団は、市町村の非常勤職員として、他に本業を持ちながら郷土愛護の精神に基づき、生命、身体及び財産を災害から守るため、災害出動はもとより火災予防活動や各種訓練など多方面にわたる消防・防災活動を行う、地域防災の中核を担う重要な役割を果たしております。

消防団は、1団、3個分団、15個部及び機能別消防団で構成し、団員数200名（定員240名）で小型動力ポンプ付積載車15台及び「救助用資機材・防災資機材搭載型小型動力ポンプ積載車」（消防庁無償貸付）を保有しています。

組織の構成		管 轄	団員数
団長、副団長、正副分団長			9 (9)
第1分団 (愛川地区)	第1部	川北区	11 (12)
	第2部	宮本区	11 (13)
	第3部	原臼区	10 (13)
	第4部	両向区	9 (13)
	第5部	細野区	7 (14)
	第6部	田代区	12 (14)
第2分団 (高峰地区)	第1部	三増区	15 (15)
	第2部	小沢区	13 (14)
	第3部	箕輪区	12 (12)
	第4部	角田区	7 (12)
第3分団 (中津地区)	第1部	上熊坂区、春日台区	14 (15)
	第2部	熊坂区、下谷八菅山区、 内陸工業団地の一部	9 (15)
	第3部	二井坂区、桜台区、桜台団地区、 内陸工業団地の一部	14 (15)
	第4部	半縄区、坂本区、 内陸工業団地の一部	13 (15)
	第5部	大塚区、六倉区、 内陸工業団地の一部	13 (15)
機能別消防団	内陸工業団地		9 (10)
	大塚下工業団地		5 (5)
	多言語		7 (9)
合 計			200 (240)

() 内の数値は定員数

82 消防団のあゆみ

昭和31年	9月	町村合併により中津村消防団と合併し、15分団の「愛川町消防団」となる。 初代消防団長 河内 保 氏 就任 ○組織 団長以下575名(15分団) ○設備 消防ポンプ自動車 3台、三輪ポンプ自動車 2台 手引動力ポンプ7台 可搬動力ポンプ9台
昭和32年	7月	愛川町消防団員等公務災害補償条例制定
昭和34年	2月	日本消防協会から全国優良消防団として表彰され表彰旗を授与
	4月	2代消防団長 大貫 弘二 氏 就任 ○組織 団長以下464名(15分団)
昭和37年	3月	自治省消防庁から全国優良消防団として表彰され表彰旗を授与
昭和38年	4月	3代消防団長 井上 包雄 氏 就任 ○組織 団長以下400名(15分団)
昭和39年	6月	消防団員勤続15年以上の退職者に対する退職報償金条例制定 愛川町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例制定
昭和40年	4月	4代消防団長 小島 利徳 氏 就任 ○組織 団長以下400名(15分団) 愛川町消防団員等公務災害補償条例の全部を改正 愛川町消防操法大会開催
昭和41年	3月	愛川町消防団員の定員任免、給与、服務等に関する条例制定
昭和42年	4月	消防団長 小島 利徳 氏 再任 ○組織 団長以下355名(15分団)
昭和44年	4月	5代消防団長 梅 沢 要 氏 就任 ○組織 団長以下355名(15分団)
	8月	愛川町消防団員水泳大会開催
昭和46年	4月	6代消防団長 小野沢 芳治 氏 就任 ○組織 団長以下355名(15分団)
昭和48年	4月	7代消防団長 山田 佐七 氏 就任 ○組織 団長以下355名(15分団)
昭和50年	4月	8代消防団長 馬場 光義 氏 就任 ○組織 団長以下355名(15分団) ○設備 消防ポンプ自動車 16台 小型動力ポンプ 6台 専用積載車 3台
	8月	第25回神奈川県消防操法大会に第10分団が出場 消防ポンプ車の部で最優秀賞を受賞
昭和52年	4月	9代消防団長 斉藤 信男 氏 就任 ○組織 団長以下290名(3分団15部)
昭和54年	4月	10代消防団長 熊坂 忠雄 氏 就任 ○組織 団長以下290名(3分団15部)
昭和56年	4月	11代消防団長 中村 文夫 氏 就任 ○組織 団長以下246名(3分団15部)
昭和60年	4月	12代消防団長 山口 一男 氏 就任 ○組織 団長以下246名(3分団15部)
昭和62年	4月	13代消防団長 大矢 邦明 氏 就任 ○組織 団長以下246名(3分団15部)
平成 2年	7月	第37回神奈川県消防操法大会へ第2分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて最優秀賞を受賞
平成 4年	4月	14代消防団長 馬場 紀光 氏 就任 ○組織 団長以下246名(3分団15部)
	6月	消防団水防訓練を実施
	7月	第38回神奈川県消防操法大会へ3分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞 小型動力ポンプ付積載車3台を更新、消防団に配属 配属部 第2分団第2部 第3分団第3部 第3分団第5部
平成 5年	3月	小型動力ポンプ付積載車1台を更新、消防団に配属 配属部 第2分団第3部

平成 6年 7月	第 3 9 回神奈川県消防操法大会へ第 1 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞 小型動力ポンプ付積載車 2 台を更新、消防団に配属 配属部 第 1 分団第 5 部 第 2 分団第 4 部
平成 7年 1 2月	小型動力ポンプ付積載車 2 台を更新、消防団に配属 配属部 第 1 分団第 6 部 第 3 分団第 1 部
平成 8年 3月 7月 8月	馬場消防団長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 第 4 0 回神奈川県消防操法大会へ 2 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞 小型動力ポンプ付積載車 2 台を更新、消防団に配属 配属部 第 1 分団第 1 部 第 1 分団第 4 部
平成 9年 3月	消防団、消防署合同による同時多発火災を想定した火災防御訓練を実施 小型動力ポンプ付積載車 2 台を更新、消防団に配属 配属部 第 2 分団第 1 部 第 3 分団第 2 部
5月	元消防団長山田 佐七氏が春の叙勲で勲六等瑞宝章を受章
平成 1 0年 3月 7月 1 2月	消防団器具舎（第 2 分団第 1 部三増地区）竣工 第 4 1 回神奈川県消防操法大会へ第 3 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞 小型動力ポンプ付積載車 3 台を更新、消防団に配属 配属部 第 1 分団第 2 部 第 1 分団第 3 部 第 3 分団第 4 部
平成 1 1年 8月	愛川町消防団の組織・活動のありかた等検討会報告
平成 1 2年 3月 4月 7月 1 0月	消防団の定数改正 1 5 代消防団長 熊坂 康治 氏 就任 ○組 織 団長以下 2 3 1 名（3 分団 1 5 部） 第 4 2 回神奈川県消防操法大会へ消防団選抜で出場 小型動力ポンプの部に於いて最優秀賞を受賞 第 1 7 回全国消防操法大会へ出場 小型動力ポンプの部に於いて 6 位に入賞
平成 1 3年 3月	熊坂団長が（財）日本消防協会会長表彰（功績章）を受章 愛川町消防団が（財）県消防協会会長表彰（表彰旗）を受賞 消防団器具舎（第 1 分団第 1 部）竣工
平成 1 4年 3月 4月 7月	消防団器具舎（第 3 分団第 3 部）竣工 消防団器具舎（第 3 分団第 4 部）竣工 熊坂団長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 熊坂消防団長が神奈川県消防協会厚木市愛甲郡支部長に就任 第 4 3 回神奈川県消防操法大会へ第 1 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞
平成 1 5年 3月	消防団器具舎（第 1 分団 3 部）竣工 宮木副団長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章
平成 1 6年 3月 7月	熊坂団長が日本消防協会会長表彰（永年勤続章）を受章 柏木副団長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 第 4 4 回神奈川県消防操法大会へ第 2 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞
平成 1 7年 3月 1 0月	沼田第 2 分団長が日本消防協会会長表彰（精績章）を受章 小型動力ポンプ積載車 3 台を更新、消防団に配属 配属部 第 2 分団第 2 部 第 3 分団第 3 部 第 3 分団第 5 部
平成 1 8年 3月 4月 7月	柏木副団長が日本消防協会会長表彰（永年勤続章）を受章 小川副団長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 第 2 分団第 3 部器具舎 竣工 第 1 6 代消防団長 柏木 彰 氏 就任 第 4 5 回神奈川県消防操法大会へ第 2 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優良賞を受賞

平成18年10月	小型動力ポンプ積載車1台を更新、消防団に配属 配属部 第2分団第3部
12月	危険予知訓練(S-KYT)を実施
平成19年3月	柏木団長が日本消防協会会長表彰(功績章)を受章
7月	消防団教育訓練(機関科)を実施
10月	小型動力ポンプ積載車2台を更新、消防団へ配属 配属部 第1分団第5部 第2分団第4部
12月	消防団員夏活動服を新基準のものに一斉更新 消防団安全管理セミナーを実施
平成20年1月	消防団器具舎(第1分団6部)竣工
2月	第3分団第1部器具舎外壁、屋根改修工事完成
5月	鈴木副団長が日本消防協会会長表彰(精績章)を受章
7月	消防団基礎教育課程(新入団員研修)を実施 第46回神奈川県消防操法大会に第3分団が出場
10月	小型動力ポンプの部で優良賞を受賞 小型動力ポンプ積載車2台を更新、消防団へ配属 配属部 第1分団第6部 第3分団第1部
平成21年5月	消防団教育課程(I・II課程)を実施
平成22年1月	消防団器具舎(第1分団2部)竣工
3月	小島第1分団長が日本消防協会会長表彰(精績章)を受章
5月	消防団基礎教育課程(新入団員研修)を実施
7月	第47回神奈川県消防操法大会に第1分団が出場 小型動力ポンプの部で優秀賞を受賞
11月	危険予知訓練(S-KYT)を実施
平成23年3月	小川副団長が日本消防協会会長表彰(永年勤続章)を受章
5月	消防団教育課程(III課程)を実施
6月	地震対策教育課程・水防研修会を実施
6月	制服支給基準を部長以上に変更
10月	部長以上研修を実施「放射能についての知識と対処法」
平成24年2月	日本消防協会 特別表彰「まとい」を受章 鈴木第3分団長が日本消防協会会長表彰(精績章)を受章
3月	消防団器具舎(第3分団第1部)竣工 管轄区域見直しによる消防団器具舎移転(第3分団第2部)
4月	第17代消防団長 小川 成人 氏 就任
5月	消防団基礎教育課程(新入団員研修)を実施
7月	第48回神奈川県消防操法大会に第2分団が出場 小型動力ポンプの部で優良賞を受賞
8月	デジタルトランシーバを各部1台・各分団長に配備(計18台)
11月	愛川町消防団員確保対策検討委員会を開催(延べ4回)
12月	編上ゴム長靴を消防団各部に3足合計45足を配備(服制基準見直しに伴う)
平成25年2月	小川団長が第65回日本消防協会定例表彰において、功績章を受章
5月	消防団員基礎教育I・II課程を実施(35名出席)
6月	地震対策教育課程・水防研修会を実施(31名出席)
7月	機関科課程を実施(32名出席)
9月	消防団員家族慰安会を開催「山本譲二歌謡ショー」を開催
12月	消防団活動に係るアンケート実施(213名対象:199名回答:回収率93.4%) 編上ゴム長靴を消防団各部に3足合計45足を配備
平成26年2月	鈴木副団長が日本消防協会会長表彰「精績章」を受章(28日ニッショーホール)
3月	愛川町消防団・愛川町消防本部が消防庁長官表彰「竿頭綬」を受章(3月5日ニッショーホール)
4月	第18代消防団長 鈴木 慎三 氏 就任 ○愛川町消防団支援隊発足(発足時21名、初代隊長 馬場 紀光 氏)
7月	第49回神奈川県消防操法大会に第3分団が出場 小型動力ポンプの部で優良賞を受賞
11月	危険予知訓練(S-KYT)を実施
12月	編上ゴム長靴を消防団各部に3足合計45足を配備
平成27年3月	鈴木団長が日本消防協会会長表彰(功績章)を受章
5月	消防団員基礎教育I・II課程を実施(46名出席)
7月～9月	応急手当普及員講習会を受講(3回受講:計39名)

平成27年10月	あいかわ消防フェスタにおいて、実行委員会を結成し消防団員確保のPR活動を実施
11月	新型防火衣を部長以上に配備（計24着） 消防団員研修を開催（講師：消防団員確保アドバイザー森山氏）
12月	編上げゴム長靴を団幹部に配備（計9足）
平成28年7月	新型防火衣を各部4着配備（計60着） 耐切削性手袋を全団員に配備 第50回神奈川県消防操法大会に第1分団が出場 小型動力ポンプの部で優良賞を受賞
平成28年12月	小型動力ポンプ付積載車2台を更新、消防団に配属 配属部 第1分団第1部 第1分団第4部
平成29年5月	元消防団長 馬場 紀光 氏が平成29年春の叙勲（瑞宝単光章）を受章
9月	消防団員技術発表会を開催
11月	小型動力ポンプ付積載車2台を更新、消防団に配属 配属部 第2分団第1部 第3分団第2部 救命胴衣を各部3着配備（計45着）
平成30年3月	日本消防協会から全国優良消防団として表彰され表彰旗を授与
4月	○愛川町消防団機能別消防団を発足 内陸工業団地協同組合（定員10名 実員8名） 大塚下団地共栄会（定員5名 実員5名） 消防団基礎教育課程（新入団員研修）を実施
7月	第51回神奈川県消防操法大会に第2分団が出場 小型動力ポンプの部で優良賞を受賞
8月	救命胴衣を各部2着追加配備（各部5着計75着）
11月	小型動力ポンプ付積載車1台を更新、消防団に配属 配属部 第3分団第4部
平成31年3月	消防団器具舎（第3分団第2部）竣工
8月	デジタルトランシーバを3台及び防塵メガネ30個を配備
9月	消防団員技術発表会を開催
令和元年11月	小型動力ポンプ付積載車2台を更新、消防団に配属 配属部 第1分団第2部 第1分団第3部
令和2年3月	鈴木団長が消防庁長官表彰（功労章）を受章
4月	第19代消防団長 小島 一彦 氏 就任
7月	第52回神奈川県消防操法大会が新型コロナウイルス感染拡大のため中止
11月	デジタルトランシーバを30台配備
令和3年2月	チェーンソー3台及び防塵メガネ45個を配備
7月	第53回神奈川県消防操法大会が新型コロナウイルス感染拡大のため中止
9月	基本団員用活動雨衣を配備（178着）
令和4年1月	愛川町消防出初式を消防庁舎敷地内にて挙行
3月	小島団長が日本消防協会会長表彰（功績章）を受章 愛川町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正 「団員任用資格へ例外規定追加」、「出勤報酬の創設」
5月	元消防団長 柏木 彰 氏が令和4年春の叙勲（瑞宝単光章）を受章
6月	消防団あり方検討委員会を開催（年間延べ4回）
7月	第54回神奈川県消防操法大会が規模を縮小して開催され、消防団選抜で出場し 小型動力ポンプの部で優秀賞を受賞
令和5年3月	総務省消防庁から救助用資機材、防災学習用資機材搭載型小型動力消防ポンプ付積載車の無償貸付を受ける
9月	消防団員基礎教育・ポンプ運用課程を実施
令和6年3月	愛川町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正 多言語機能別消防団創設のため、機能別消防団員の定員を9人増加し、団員全体の定数を231人から240人とした。
令和6年7月	第55回神奈川県消防操法大会に出場し、小型動力ポンプの部で優良賞を受賞 （神奈川県総合防災センター） 多言語機能別消防団創設（定員9人）
令和7年2月	令和6年度愛川町・座間市消防団合同訓練を実施（神奈川県消防学校）
3月	日本消防協会定例表彰式において愛川町消防団が「竿頭綬」を受章

8.3 消防団員報酬額

(単位：円)

階級	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
年額	340,000	214,000	136,000	128,000	119,000	73,000	64,000

8.4 消防団員出動状況

(令和6年中)

合計		火災		風水害 (警戒)		訓練		警戒		管外応援		捜索	
回	人	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人
19	1,521	4	137	0	0	11	910	4	474	0	0	0	0

8.5 消防団員出動報酬

(単位：円)

出動報酬の区分	災害 (水火災又は地震等の災害)		訓練	警戒
支給額 (1日につき)	現場活動時間 4時間以上：8,000	現場活動時間 4時間未満：4,000	1,400	1,400

8.6 消防団員在職年数

(単位：人)

合計 (実員)	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
200	48	56	38	35	15	7	1

8.7 消防団員退職報償金

(単位：千円)

階級 \ 年数	5年以上	10年以上	15年以上	20年以上	25年以上	30年以上
	10年未満	15年未満	20年未満	25年未満	30年未満	
団長	239	344	459	594	779	979
副団長	229	329	429	534	709	909
分団長	219	318	413	513	624	809
副分団長	214	303	388	478	624	809
部長・班長	204	283	358	438	564	734
団員	200	264	334	409	519	689

88 消防団員の定員・実員・階級別年齢状況

(単位：人)

	合計	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	副 部 長	班 長	団 員	機 能 別 消 防 団
定員	240	1	2	3	3	15	15	63	114	24
実員	200	1	2	3	3	15	15	56	84	21
20歳未満	1								1	
20～24	8								6	2
25～29	19						1	3	13	2
30～34	26						2	10	11	3
35～39	51					7	5	18	20	1
40～44	52			2	2	8	5	16	18	1
45～49	22		1	1	1		2	5	8	4
50歳以上	21	1	1					4	7	8
平均年齢	38.9	56.0	49.5	45.0	44.0	40.3	38.9	38.8	36.7	41.4

89 消防団員の勤務先状況

勤務先の状況		人数(人)	割合(%)
団員総数		200	100.0
町内 128人 64.0%	自営業(家族従業者・役員含む)	21	10.5
	町役場職員	31	15.5
	町内一般企業	46	23.0
	内陸工業団地	21	10.5
	学生	1	0.5
	その他	8	4.0
町外 72人 36.0%	厚木市	28	14.0
	相模原市	21	10.5
	海老名市	3	1.5
	その他	20	10.0

職業構成、就業形態		人数(人)	割合(%)
団員総数		200	100.0
職業構成	国家公務員	0	0.0
	地方公務員	31	15.5
	特殊法人等	3	1.5
	その他	166	83.0
就業形態	被用者	161	80.5
	自営業	15	7.5
	家族従業者	9	4.5
	その他	15	7.5

90 消防団現有車両

	種 別	型 式	購入年月	総排気量 (CC)	ポ ン プ			車 両 番 号	
					社 名	級 別	型 式		
第 1 分 団	第 1 部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	H28. 11	2,980	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 7 2 9
		小型動力ポンプ	ト-ハツ VF53AS						
	第 2 部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	R1. 10	2,980	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 3 6 9 1
		小型動力ポンプ	ト-ハツ VF53AS						
	第 3 部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	R1. 10	2,980	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 3 6 9 2
		小型動力ポンプ	ト-ハツ VF53AS						
第 4 部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	H28. 11	2,980	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 7 3 0	
	小型動力ポンプ	ト-ハツ VF53AS							526
第 5 部	積 載 車	三菱 PDG-FD70B	H19. 10	2,977	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 3 9 3 6	
	小型動力ポンプ	ト-ハツ vc62PRO							617
第 6 部	積 載 車	三菱 PDG-FD70B	H20. 10	2,977	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 4 7 9 7	
	小型動力ポンプ	ト-ハツ VF53AS							526
第 2 分 団	第 1 部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	H29. 11	2,980	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 1 7 0 4
		小型動力ポンプ	ト-ハツ VF53AS						
	第 2 部	積 載 車	ニッサン KR-AHS69A	H17. 10	3,050	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 1 6 3 1
		小型動力ポンプ	ト-ハツ vc62PRO						
第 3 部	積 載 車	三菱 PA-FD70BB	H18. 9	2,977	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 2 8 8 2	
	小型動力ポンプ	ト-ハツ vc62PRO							617
第 4 部	積 載 車	三菱 PDG-FD70B	H19. 10	2,977	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 3 9 3 7	
	小型動力ポンプ	ト-ハツ vc62PRO							617
第 3 分 団	第 1 部	積 載 車	三菱 PDG-FD70B	H20. 10	2,977	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 4 7 9 8
		小型動力ポンプ	ト-ハツ VF53AS						
	第 2 部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	H29. 11	2,980	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 1 7 0 5
		小型動力ポンプ	ト-ハツ VF53AS						
	第 3 部	積 載 車	ニッサン KR-AHS69A	H17. 10	3,050	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 1 6 3 2
		小型動力ポンプ	ト-ハツ vc62PRO						
	第 4 部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	H30. 10	2,980	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 2 6 9 4
		小型動力ポンプ	ト-ハツ VF53AS						
	第 5 部	積 載 車	ニッサン KR-AHS69A	H17. 10	3,050	ト-ハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 1 6 3 3
		小型動力ポンプ	ト-ハツ vc62PRO						

愛川町消防団 (無償貸付車両)	救助用資機材・防災学習 用資機材搭載型小型動 力ポンプ積載車	主な積載品：C 級可搬ポンプ・消防用ホース電動 油圧式コンビツール・エンジンカッター・VR 煙訓 練装置・プロジェクター・AED トレーナー等	相模 800 せ 6 7 9 3 (日産キャラバン)
--------------------	--------------------------------------	---	-------------------------------

9 1 消防団器具舎

部 名	住 所	延べ床面積	構 造	竣工年月
		(階別面積)		
第 1 分団第 1 部	半原 6 3 5 5 - 1	7 5 . 7 0 m ²	軽量鉄骨造	平成 1 3 年 3 月
		(1F 3 7 . 8 5 2F 3 7 . 8 5)		
第 1 分団第 2 部	半原 4 4 6 9	7 8 . 0 0 m ²	鉄骨造	平成 2 2 年 1 月
		(1F 3 9 . 0 0 2F 3 9 . 0 0)		
第 1 分団第 3 部	半原 2 3 1 2 - 1	7 4 . 8 8 m ²	重量鉄骨造	平成 1 5 年 4 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 1 分団第 4 部	半原 2 8 1 4 - 6	4 7 . 6 0 m ²	軽量鉄骨造	昭和 6 2 年 3 月
		(1F 2 4 . 4 0 2F 2 3 . 2 0)		
第 1 分団第 5 部	半原 1 0 5	3 1 . 4 6 m ²	木造	昭和 6 0 年 4 月
第 1 分団第 6 部	田代 6 5 2 - 3	7 4 . 8 8 m ²	鉄骨造	平成 2 0 年 1 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 2 分団第 1 部	三増 5 8 1	6 7 . 3 1 m ²	鉄骨造	平成 1 0 年 3 月
		(1F 4 1 . 3 9 2F 2 5 . 9 2)		
第 2 分団第 2 部	角田 8 3 4 - 3	4 7 . 6 0 m ²	鉄骨造	昭和 5 9 年 1 2 月
		(1F 2 4 . 4 0 2F 2 3 . 2 0)		
第 2 分団第 3 部	角田 3 1 3 - 2	7 4 . 8 8 m ²	鉄骨造	平成 1 8 年 2 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 2 分団第 4 部	角田 2 4 0 2 - 1	4 7 . 0 0 m ²	鉄骨造	昭和 6 3 年 3 月
		(1F 2 3 . 5 0 2F 2 3 . 5 0)		
第 3 分団第 1 部	中津 1 4 1 0 - 7	7 4 . 8 8 m ²	鉄骨造	平成 2 4 年 3 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 3 分団第 2 部	中津 5 1 1 - 1	7 4 . 8 8 m ²	鉄骨造	平成 3 1 年 3 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 3 分団第 3 部	中津 3 7 3 2 - 1 5	7 4 . 8 8 m ²	重量鉄骨造	平成 1 4 年 3 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 3 分団第 4 部	中津 3 9 0 1 - 7	7 4 . 8 8 m ²	重量鉄骨造	平成 1 4 年 3 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 3 分団第 5 部	中津 2 2 7 3 - 4	4 7 . 6 0 m ²	鉄骨造	昭和 6 1 年 1 1 月
		(1F 2 4 . 4 0 2F 2 3 . 2 0)		

令和7年岩手県大船渡市林野火災

緊急消防援助隊神奈川県大隊

愛川町消防署 消火小隊及び後方支援隊活動報告



派遣活動期間

令和7年3月3日（月）から3月13日（木）まで

岩手県大船渡市林野火災の概要

令和7年2月26日（水）岩手県大船渡市で発生した大規模な林野火災は平成以降、国内最大規模の焼失面積であり、東京ドーム620個分以上の約2,900ヘクタールとされている。

愛川町の面積34.29km²に対して、本火災は2.9km²とされ、愛川町に例えると、約8割の焼損面積であった。

被害については、火災による死者が1名、避難指示は最大で1,896世帯、4,596人におよび、住宅など約200棟以上が影響を受けた火災である。

愛川町消火小隊、後方支援隊派遣隊員

- ・ 第1次派遣隊（令和7年3月3日～3月7日）5日間
隊長:大島 康洋 隊長補佐:政木 康男 機関員:日下部 栄助 隊員:齊藤 秀真
後方支援隊:林 光希
- ・ 第2次派遣隊（令和7年3月6日～3月10日）5日間
隊長:中村 和博 機関員:城間 勤 隊員:永島田 悠斗 隊員:澤口 誠
後方支援隊:高知 たくま
- ・ 第3次派遣隊（令和7年3月9日～3月13日）5日間
隊長:徳永 雄二 機関員:茂泉 光荣 隊員:佐藤 宏祐 隊員:栗山 颯太
後方支援隊:森 秀作

※ 愛川町は、令和7年3月3日から3月13日までの11日間の活動で、
合計15名の隊員を派遣した。

緊急消防援助隊の派遣について

岩手県大船渡市の大規模林野火災を受け、総務省消防庁長官から出動の求めがあり、神奈川県は3月3日、緊急消防援助隊を現地に派遣した。

陸上からの消火活動を主な任務とし、県内全ての消防局・消防本部から計92隊、345人が出動。消火小隊（41隊、188人）、後方支援小隊（32隊、80人）、救助小隊（7隊、29人）、特殊装備小隊（6隊、21人）などで構成される。

緊急消防援助隊神奈川県大隊の派遣について

- ・ 3月3日（月）06時55分 【出動準備依頼】
総務省消防庁から、消火隊の派遣について打診があり、派遣可能と回答する。
- ・ 3月3日（月）08時12分 【出動の求め】
総務省消防庁から、報告した派遣部隊に対して出動の求めがくる。
- ・ 3月3日（月）14時00分 【集結】
神奈川県内消防本部は、緊急消防援助隊神奈川県大隊を編成し、被災地へ向け出動する。

【神奈川県大隊編成】

第1ブロック：横浜市、藤沢市、平塚市、茅ヶ崎市、大磯町、二宮町

第2ブロック：川崎市、横須賀市、鎌倉市、逗子市、葉山町

第3ブロック：相模原市、厚木市、秦野市、大和市、伊勢原市、海老名市、
座間市、綾瀬市、**愛川町**、小田原市、箱根町、湯河原町

災害派遣出動報告

（愛川町消火小隊4名、後方支援隊1名が第1次派遣隊出動）

愛川町の出発式



※正午 神奈川県消防学校へ向け出発

緊急消防援助隊神奈川県大隊 第1次派遣隊集結・出動



- ・ 3月3日（月）13:00 神奈川県消防学校到着
- ・ 3月3日（月）14:00 神奈川県大隊 神奈川県消防学校を出発
- ・ 3月4日（火）01:11 神奈川県大隊 宮城県気仙沼市総合体育館に到着（宿营地）

宿营地（宮城県気仙沼市総合体育館）の状況



※食料はレトルト食品（白米、カレー）、カップ麺、パン、カロリーメイト等

宿営地（宮城県気仙沼市総合体育館）状況



※体育館内は、冷暖房完備、シャワー・トイレ付き

宿営地（宮城県気仙沼市総合体育館）駐車場の状況



宿営地から出動



宿営地から活動現場までのルート

宿営地

宮城県気仙沼市

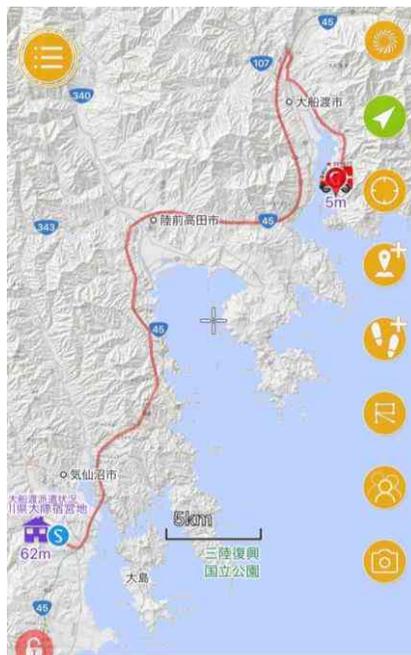
総合体育館（ケーウェーブ）

活動現場

岩手県大船渡市

所要時間

片道約60分（走行距離44km）



現場活動時間

- ・ 第1次派遣隊（2班体制）
 - ①午前6時から午後2時まで
 - ②午後2時から午後10時まで
 - ③午後10時から午前6時まで

- ・ 第2次派遣隊（3班体制）
 - ①午前7時から午後1時まで
 - ②午後1時から午後7時まで
 - ③午後7時から午前1時まで
 - ④午前1時から午前7時まで

- ・ 第3次派遣隊（3班体制）
 - ①午前7時から午後1時まで
 - ②午後1時から午後7時まで
 - ③午後7時から午前1時まで
 - ④午前1時から午前7時まで

緊急消防援助隊神奈川県大隊の主な任務

1. 飛び火警戒
2. 延焼防止ライン設定
3. ホースライン設定
4. 中継隊形
5. 夜間巡回警戒
6. 被災者建物への声掛け

1 飛び火警戒

本火災において、山間部でありながら、太平洋が隣接し、リアス式の地形であることに加え、入り組んだ地形、気候の変動等により、消火活動が難航した。

あらゆる状況を想定し、24時間体制で交代をしながら飛び火警戒を実施。



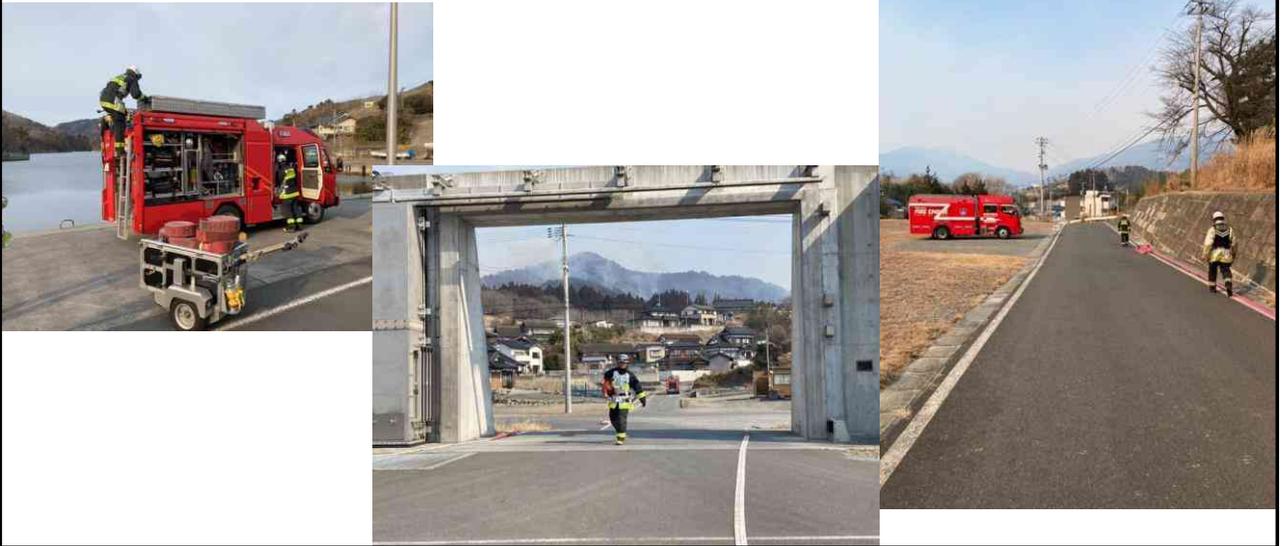
2 延焼防止ライン設定

延焼が止まっている位置を確認し、ラインを設定する。



3 ホースライン設定

ホースを各都市車両に繋ぎ山へ延長する。



4 中継隊形

海から水を吸水し、ホースを車両ごとに繋ぎ山へ延長する。



5 夜間巡回警戒

飛び火、延焼拡大の警戒を24時間体制で行う。



6 被災者建物への声掛け

飛び火、延焼拡大の警戒を24時間体制で行う。



出動現場（岩手県大船渡市赤崎町）



神奈川県大隊担当区域図



沿岸部の状況



※山全体の所々から白煙が上昇（3月4日午前6時頃撮影）

現場到着時の状況（大船渡市赤崎町蛸ノ浦漁港付近）



※現場付近到着時、自衛隊ヘリによる、空中消火が繰り返し行われていた。

ホースライン設定場所（延焼中の山林から学校、民家を守る）



※飛び火警戒、延焼防止ライン設定、中継隊形の実施

山林の延焼状況



現場詳細図及び活動方針の決定



※愛川町は、①を担当する。



活動状況（蛸ノ浦漁港に水利部署）



※川崎市、海老名市、座間市、愛川町の混成部隊で活動する。

使用ホースの状況

海から山へ延長し、放水を行うため、大量のホースが必要となった。



夜間巡回警戒の状況

依然として延焼は続いていた。



裏山の巡回警戒「3月5日（水）待望の雨」



清水水門付近の残火処理



※川崎市、鎌倉市、大磯町、愛川町の混成部隊で入山





山間部での消火状況



消火後の様子

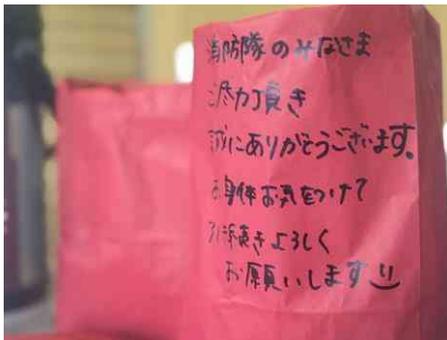


宿営地帰着後の対応【デコンタミネーションエリア】

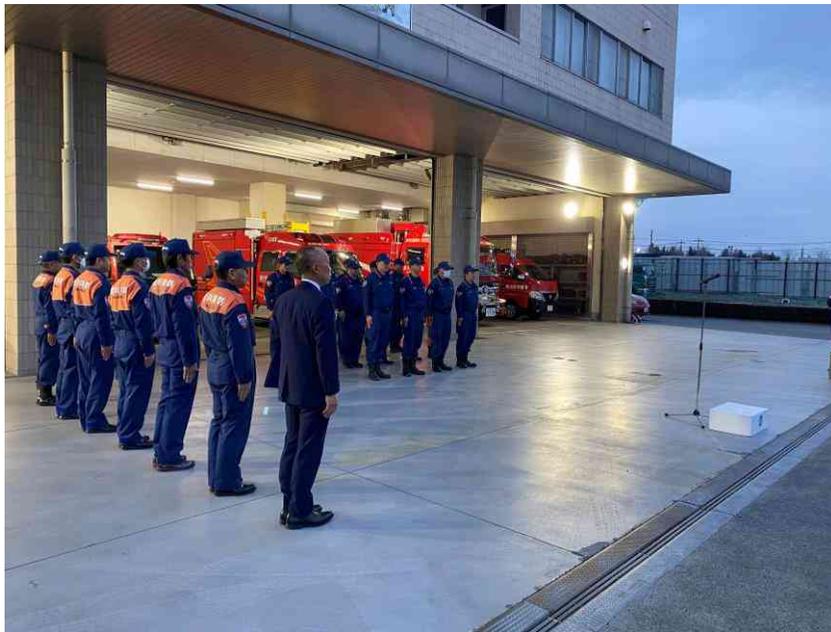


宿営地帰着後の対応【食事エリア】





解隊式



【動画】救命リレー 第一走者はあなた！



応急手当PR動画「救命リレー 第一走者はあなた！」を作成しました。
愛川町では、「応急手当PR動画」を作成して応急手当の普及を推進しています。

【動画】「救急救命士が教える！心肺蘇生法の流れ」



新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が難しい救命講習を補完する目的で、動画「救急救命士が教える！心肺蘇生法の流れ」を作成しました。

愛川町AEDマップ



愛川町内の事業所等が所有・管理しているAEDを、緊急時に使用することができる施設などについて、ご自分のスマートフォン等を用いてインターネット上で確認することができる「愛川町AEDマップ」を作成しました。

令和7年度 全国統一防火標語

急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし

○過去の全国統一防火標語

昭和48年度	隣にも声かけあってよい防火	平成11年度	あぶないよ ひとりぼっちにした その火
昭和49年度	生活の一部にしよう火の点検	平成12年度	火をつけた あなたの責任 最後まで
昭和50年度	幸せを明日につなぐ火の始末	平成13年度	たしかめて。火を消してから 次のこと
昭和51年度	火災は人災 防ぐはあなた	平成14年度	消す心 置いてください 火のそばに
昭和52年度	使う火を消すまで離すな目と心	平成15年度	その油断 火から炎へ 災いへ
昭和53年度	それぞれの持場で生かせ火の用心	平成16年度	火は消した? いつも心に きいてみて
昭和54年度	これくらいと思う油断を火が狙う	平成17年度	あなたです 火のあるくらしの 見はり役
昭和55年度	あなたです! 火事を出すのも防ぐのも	平成18年度	消さないで あなたの心の 注意の火
昭和56年度	毎日が防火デーです ぼくの家	平成19年度	火は見てる あなたが離れる その時を
昭和57年度	火の用心 心で用心 目で用心	平成20年度	火のしまつ 君がしなくて 誰がする
昭和58年度	点検は防火のはじまりしめくり	平成21年度	消えるまで ゆっくり火の元 にらめっ子
昭和59年度	“あとで”より“いま”が大切 火の始末	平成22年度	「消したかな」 あなたを守る 合言葉
昭和60年度	怖いのは「消したつもり」と「消えたはず」	平成23年度	消したはず 決めつけないで もう一度
昭和61年度	防火の大役 あなたが主役	平成24年度	消すまでは 出ない行かない 離れない
昭和62年度	消えたかな! 気になるあの火 もう一度	平成25年度	消すまでは 心の警報 ONのまま
昭和63年度	その火 その時 すぐ始末!	平成26年度	もういいかい 火を消すまでは まあだだよ
平成元年度	おとなりに あげる安心 火の始末	平成27年度	無防備な 心に火災が かくれんぼ
平成2年度	まず消そう 火への鈍感 無関心	平成28年度	消しましょう その火その時 その場所で
平成3年度	毎日が 火の元警報 発令中	平成29年度	火の用心 ことばを形に 習慣に
平成4年度	点検を 重ねて築く “火災ゼロ”	平成30年度	忘れてない? サイフにスマホに 火の確認
平成5年度	防火の輪 つなげて広げて なくす火事	令和元年度	ひとつずつ いいね! で確認 火の用心
平成6年度	安心の 暮らしの中心 火の用心	令和2年度	その火事を 防ぐあなたに 金メダル
平成7年度	災害に 備えて日頃の 火の用心	令和3年度	おうち時間 家族で点検 火の始末
平成8年度	便利さに 慣れて忘れる 火のこわさ	令和4年度	お出かけは マスク戸締り 火の用心
平成9年度	つけた火は ちゃんと消すまで あなたの火	令和5年度	火を消して 不安を消して つなぐ未来
平成10年度	気をつけて はじめはすべて 小さな火	令和6年度	守りたい 未来があるから 火の用心

令和6年版 消 防 年 報

令和7年7月 発行

編集・発行 愛川町消防本部

〒243-0301 愛川町角田286番地1

電話 046-285-3131

FAX 046-285-4091

E-mail syoubou@town.aikawa.kanagawa.jp

HP <http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/bousai/index.html>